

2004年 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き & 山口・美祢・長門の四季

M. Nakanishi Home Page より
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

2005.1.15.



By Mutsuo Nakanishi

2004 風来訪 Country Walk
里歩き & 山歩き

Country Walk 里歩き

1. 信州 茅野 八ヶ岳山麓に縄文のビーナスを訪ねて 2003.12.5.
2. 網走 流氷探訪 アルバム 2004.3.7.
3. 春風にそよぐ「かたくりの花」に出会えました 2004.3.28.
兵庫県三日月町 弦谷 かたくり自生地で
4. エンジョイ イタリア 古い街を訪ねて 2004.5.10.-20.
5. 信州 戸隠山の自然の中で 森林浴 2004.6.19.
6. 花の北海道 礼文島・富良野 美瑛・天塩 アルバム 2004.8.5.
7. 2004 夏 花の北海道 WALK 2004.9.5.
【礼文島・美瑛の丘・天塩/宗谷】
8. 2004 秋点描 関西で 2004.10.2.
9. 九州 縄文・古代を訪ねる旅 2004.10.6-7.
 - a. 熊本県 菊池川流域の装飾古墳群
 - b. 鹿児島県 上野原縄文遺跡
 - c. 宮崎県 古事記・日本書紀神話の西都原 古墳群
10. こどものときから慣れ親しんだ甲山 Walk 2004.12.8.
六甲連山の東の端 甲山 その甲山が街から見られない
11. 神戸だより Country Walk 11月 & 12月 風来坊 2004.12.15.

Country Walk 山歩き

1. 北摂の山 大峰山へ 桜とツツジを訪ねて 2004.4.12.
武田尾 武庫川沿いに旧福知山線廃線跡から桜の園・大峰山へ
2. 吉野山 初秋 ハイキング 2004.10.13.

Country Walk 美祢・長門の四季

1. 山口県 角島 浜木綿の花が咲く浜と角島大橋 2004.7.4.
2. 萩焼 陶房葉月 田中講平先生の作品と花とのコラボレーション 2004.7.4
3. 萩焼 田中講平先生の広島作陶展 「萩焼にほたる 舞う」 2004.10.3.

Country Walk 里歩き

信濃路・八ヶ岳南山麓をのんびりと

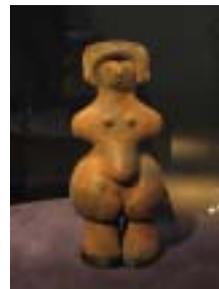
1.

尖石縄文遺跡に縄文のビーナスを訪ねて

2003.12.5.



茅野市尖石より 八ヶ岳連峰 2003.12.5.



国宝「縄文のビーナス」

2003.12.5. 東京からの帰り、中央線で南アルプスの山を眺めながら茅野に出て、八ヶ岳西山麓の斜面に広がる尖石遺跡 縄文館の「縄文のビーナス」を見にってきました。

いつもの行き当たりばったりの風来坊。天気はいいし、南アルプス眺めるだけでも良いと思って出かけたのですが、南アルプスはもちろん八ヶ岳連峰の山裾の林の中をぶらぶら歩き、本物の国宝「縄文のビーナス」を見てきました。



南アルプス 高城近傍より 2003.12.5.

1. 尖石縄文遺跡と国宝「縄文のビーナス」



中央線 葦崎近傍 車窓から 南アルプスの眺望

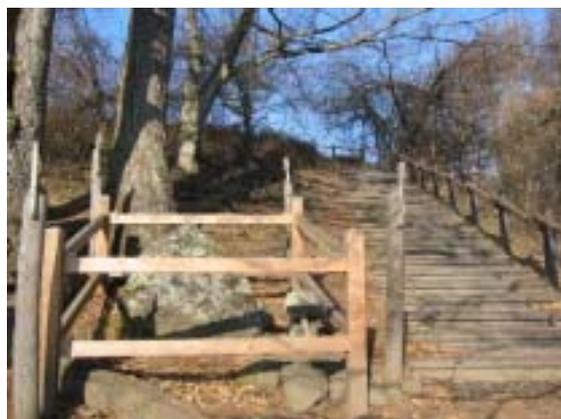
尖石遺跡は、八ヶ岳西山麓 1070mの台地であって、約 5000 年前の代表的な遺跡です。

台地の南斜面に縄文時代に石斧を研いだあとのある「尖石さま(とがりいし)」と呼ばれる巨石があり、遺跡の名前はこれに由来します。

多くの豪華な遺跡とともに 100 近い住居あとが発掘されました。



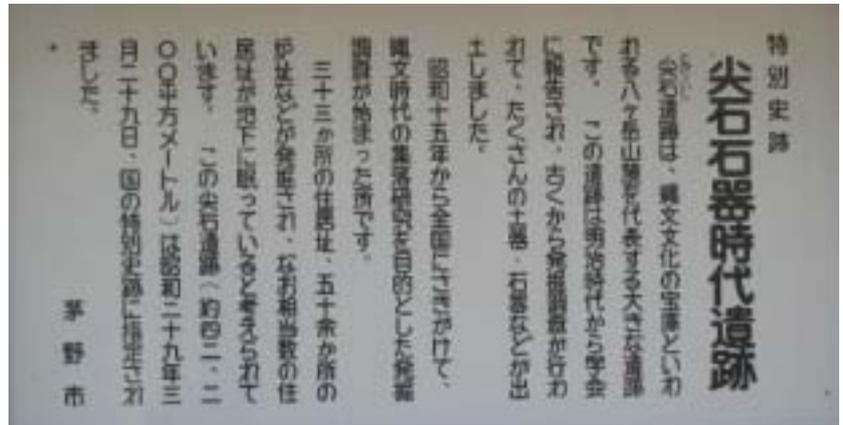
尖石縄文遺跡 茅野市茅野市 2003.12.5.



まだ多数の遺構が残っていて縄文研究上 きわめて貴重な遺跡といわれています。

八ヶ岳の山麓 諏訪・茅野は縄文の故郷 縄文人が残した数々の遺跡があり、またこの遺跡の西側を北へ続くなだらかな山々 車山から霧ヶ峰のむこうが古代日本の黒曜石の一大産地 和田峠。

この諏訪・茅野地方ではこの黒曜石加工工房とともに数々の加工品が縄文遺跡とともに見つかっています。



縄文考古館と尖石遺跡公園 隣り合う与助尾根遺跡 2003.12.5.

この尖石遺跡に併設された縄文考古館は今後の縄文研究の一大センターの役割とともに数々の縄文出土品を展示。近郊の棚畑遺跡から出土した日本最古の国宝というより、「縄文のビーナス」と呼ばれる素晴らしい土偶もここに展示されています。

国宝「縄文のビーナス」 2003.12.5. 尖石縄文考古館



「子供を産むことができる女性を豊かさの象徴とし、安産や子孫繁栄・自然の恵みを願う信仰の対象とした」など諸説ありますが、ふくよかな女性の身体を柔らかい曲線でシンプルに表現したその姿は「暖かさと豊かさ」そのもの。まさに「ビーナス」。じっと見ていると本当にぬくもりが伝わってきます。八ヶ岳の山麓 諏訪・茅野は縄文の故郷 縄文遺跡はどこもそうですが、森の中 山裾の林の中に在るのがいい。尖石もそんなところ。

この縄文考古館で 古代鉄および彩色原料「鬼板」をつかって彩色された縄文土器の彩色実験を見ました。本当に鮮やかな赤が縄文の文様とともに再現されていました。そう
例えば 信州は「鬼板」が豊富に取れるところ。



「鬼板」を使った縄文土器彩色実験



人面付 土器

八ヶ岳を見ながら林の中でのんびり昼寝をして ぶらぶら土地の人と話しながら茅野の駅まで約2時間歩きました。ついでながら 茅野・諏訪駅から大阪まで、高速バス。夕方バスに乗り込むとそのまま大阪梅田。気楽でした。



氷海の海を砕氷船が氷を割って突き進む

海岸に押し寄せた流氷が寒い夜 きしみあって ギューギュー泣く

ゴォーと吹きすさぶ風。夜が明けると流氷ははるか沖へ

そして海が開ける

それは どんな風なのか 憧れていた流氷の walk



【 内 容 】

網走 流水探訪 アルバム 2004.3.7.



1. 氷海を切裂いて進む砕氷船「オーロラ号」 砕氷船
氷海を突き進む砕氷船 かつて苦労した米 Coast Guard 氷海船規格鋼板とその溶接を
思い出していました
2. 流氷原の向こうに地球が見える日本一冬が美しい能取岬
流氷に埋め尽くされた オホーツク 鱒浦・北浜海岸 流氷の上を Walk

3月6日の夜 札幌発網走行の夜行特急に家内と二人飛び乗り、念願のオホーツク海の流氷を見学してきました。

旭川を越え石北峠へ 暗闇の車窓には月明かりの中 雪に埋まった家々がぼんやりと浮かぶ。

今年は暖冬で札幌でもあまり流氷の話聞かぬという話に果してオホーツクの流氷は接岸しているだろう

か・・・ 昨日の嵐で岸から離れたのではないか・・・などあれこれ心配していましたが、この凄い雪に心配も吹っ飛んでただ黙りこくって真っ暗な車窓に見入っていました。石北峠を越えて、網走に近づくと益々雪が深くなる。

夜あけの薄明かりの中雪でおおわれた網走湖の湖面に点々とわかさぎ釣



氷結した網走湖畔に広がるテント

りのテントが見えると程なく網走駅。朝6時30分網走着。

新聞などで流氷見物の旅行社の案内見ているともっと人があふれていると思っていましたが、駅もひっそり、静かなもの。流氷見学の砕氷船の出る網走港へ行かねばならないが、朝早くそれも雪の中 全く足がない。朝一番の流氷船出発が9時30分。無理もないと納得 するが、北国の朝は遅い。

とにかく 「早く港へ行って「流氷」の顔が見たい」ととりあえず、街の中心のバスセンターまで歩くが、やっぱり足なし。 たまたま通りかかった唯一のタクシーに乗って、港へ。物好きと運転手も笑う。でも ひょっとして 臨時があるかもしれないと・・・。

また 船からの流氷見学もいいが、能取岬からの流氷が一番 「日本で一番冬 美しい岬 そして 地球がみえる岬」それが能取岬 時間取れれば 是非行こうと勧める。

港の乗船場の建物も閉まったままだったが、8時に臨時の「オーロラ号」が出るという。ラッキーである。これで 一日行きたい所へ行ける。



雪に埋もれた早朝の網走駅

1. 氷海を切裂いて進む砕氷船「オーロラ号」 砕氷船

氷海の中を進むオーロラ号 かつて苦労した米 Coast Guard 氷海船規格鋼板とその溶接を思い出していました



氷結した網走港 2004.3.7.

オーロラ号の見学後 能取岬への案内をタクシーに頼んで臨時のオーロラ号を待つ。この臨時便が出ることを全く 誰も教えてくれない。駅で多くの人が待っているのに・・・と。

おそらく ツアー客中心の予約便。約1時間 ひっそりした待合室で待つ。

ヒューヒュー冷たい風が吹くが、快晴。

岸壁に出ると、港は完全に凍りついていて、カモメがその上で羽を休めている。まさに海が閉ざされている。

こんな港を見るのは始めてである。

岸壁にはオーロラ号が接岸しており、乗り組みの人達があわただしく準備をしている。岸壁にひとつ流氷の塊が置かれていて、写真撮影用の足場がある。おそらく ここで みんな写真をとって船に乗るのだろう。でも今は全く人影なし。ちょっと心配になってくる。

少しだけ港の北に開水面がみえるが、港は凍りついていて、流氷は防波堤に阻まれて、港には入ってこないが、もうすぐその向こうは流氷原だと船の人が教えてくれる。

「海あけ」の言葉があるが、今は完全に港が凍りついていて、閉ざされている。

早く流氷がみたい・・・

待合室に帰ると続々とバスがついて、次々と人達が到着。早朝の網走の街では考えられぬ人の群れ。みんなツアーが普通なのである。ようやく待合室に活気が戻ってくる。程なく乗船である。



出帆して 防波堤を越え、オーロラ号が船首を南に向けると一面に氷海が広がる。平坦な港の中の凍りついた平坦な海とは全く違うゴツゴツの氷塊が水平線のかなたまで続いている。北に能取岬西に網走の街から知床への海岸線 南に知床半島の峰々。その間に広がる広大な流氷原。あこがれていた風景である。

その中を氷を割って 砕氷船オーロラ号が進む。かつて見た南極の映画の光景そのもの。流氷の塊を砕きながら船が進んでゆくと船がかき混ぜた氷塊につく餌を探してカモメがいっせいに船を追う。氷の色が実に美しい。



氷海の中を進むオーロラ号 かつて苦労した米 Coast Guard 氷海船規格鋼板とその溶接を思い出していました

氷にぶち当たる大きな衝撃に耐えうる低温靱性の高い溶接と鋼板の開発。氷海を進むタンカーを夢見て・・・

そして、それが 宗谷の後継の砕氷船「白瀬」になって・・・

氷海の中の一時間 家内と二人 あっちへ行ったり こっちへ行ったり 氷海の中を楽しみました。



網走 流氷観光砕氷船 オーロラ号より 2004.3.6.



2. 流氷原の向こうに地球が見える日本一冬が美しい能取岬

早朝 乗り合わせたタクシーの運転手さんが言う。

「日本一冬が綺麗な岬 唖然とするほどに・・・ また 地球が見える

流氷見にきて能取岬にゆかなかったら損。 網走の自慢は能取岬だ 」と



日本の冬が一番美しい能取岬 2004.3.7.

午後の予定はオホーツクの海岸に行って 流氷の上を歩いて娘の勧める「ラーメン」食べに行くだけ。流氷船に思いのほか早く乗れたので時間は たっぶり。運転手氏のあまりの勧めに能取岬に行ってからオホーツクの海岸に行くことにする。能取岬は網走の町の背後を北に海岸に沿って走る丘陵の先端。夏のポスターで灯台と花が綺麗なところとの印象はあるが、全く予備知識なし。網走港から街へ戻って北へ丘を登ってゆく

林の中のドライブウェイを約15分 突如草地在る能取岬に飛び出す。風が本当に冷たい。



能取岬より 流氷に埋め尽くされたオホーツク海 2004.3.7.

眼前には地平線の向こうまで流氷原が広がるオホーツクの海。運転手氏が言うように眼前約270度さえぎるものがない。北には宗谷へ続くオホーツク 南の端は知床半島 ずっと流氷原。本当に地球が丸い。ちょっと岬の下に顔を覗かせているオープン海面の色が実に美しい。

船の上では見られない流氷の世界。北のアムール川から流れ出た流氷がオホーツクの海を渡り、風に乗ってこの岬に押し寄せる。そのボリュームにただ見とれる。風来坊でないと味わえない 運転手氏の自慢に感謝である。

3. 流氷に埋め尽くされたオホーツク 鱒浦・北浜海岸 流氷の上を Walk

海岸に押し寄せた流氷が寒い夜 きしみあって ギューギュー泣く。

ゴーゴーと吹きすさぶ風。夜が明けると流氷ははるか沖へ。

そして海が開ける。

それは どんな風なのか 懂れていた流氷の walk

網走より知床斜里を通して釧路へ釧網線がオホーツクの海岸を走っている。

この海岸へ行けば流氷に触れると午後はこのオホーツク海岸へ。ガイドブックによる観光ポイントはこの釧網線の駅がオホーツクの海に一番近い無人駅北浜駅。知床半島まで埋め尽くした氷海をバックに海岸沿いを走る汽車と駅舎がそのままレトロの喫茶店になっていて ここで流氷見ながらコーヒー飲むか ラーメンするのが最高と。

先の運転手氏のお奨めは北浜へ行く手前の鱒浦海岸。「そのまま 海岸へ降りて流氷の上を歩ける」と。

海岸に沿って汽車もバスも走っているの、鱒浦海岸へ行ってそれから北浜へ行くことにする。

a. オホーツク 鱒浦海岸 流氷の Walk

網走から知床斜里へ向う国道・釧網線がすぐ海岸のそばを走っている。 野取岬からそのままタクシーで鱒浦の海岸で下ろしてもらおう。

もう、すぐ目の前に流氷原が広がるオホーツク。

もう圧倒的ボリュームで網走の岬から知床まで眼前のオホーツクはゴツゴツした氷塊で埋め尽くされている。

すぐ横に鱒浦の漁港があるが、これでは全く海に出れまい。「海が開く」のイメージがよくわかる。





網走の南 流氷に埋め尽くされた鱒浦海岸 2004.3.7.



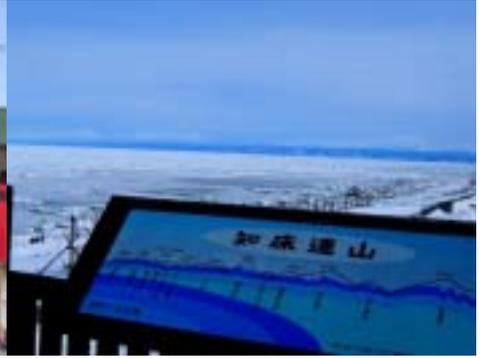
鱒浦海岸で流氷とたわむれて 2004.3.7.

まあ 物好きの部類なのか 流氷の埋め尽くされた海岸には人もなし。あまり奥へは行けないが、ゴツゴツした流氷の上を家内と二人ではしゃいで楽しむ。一つ一つ形が違うのと氷塊を通過して薄青の光が放たれるが、その光の変化が実に美しい。これが雪原との違いか・・・

海岸に建つ網走海鮮市場で昼食 うまい海鮮丼ほおぼりながら
この魚やカニどこから来るのだろう 海は閉ざされているし 地元産ではないなあ・・・と
でも おいしかった。

海岸へ出て 直ぐにあったバスで釧網線の北浜駅へ 約10分で北浜駅

b. オホーツクに一番近い駅 釧網線の無人駅 北浜駅



北浜駅はさすが観光スポット。

無人駅で眼前に氷海のオホーツクが広がる以外何も無いのに、多くの人がいる。

駅が「停車場」という喫茶店になっていて、駅舎の中も人であふれている。

駅の直ぐ横に櫓が立っていて、その上には多くの人がかメラを並べている。氷海越しに知床の山々硫黄・羅臼・斜里岳が薄くかすんで見える。どうも この上が汽車と氷海と知床半島を一枚の写真に収める絶好のポイントになっているらしく、みんなそれを待っているらしい。何はともあれ、レトロの駅舎の喫茶店に入って流氷を眺めながら娘推奨のラーメンを頼んで待つ。人は多いのですが、ゆったり気楽な気分でラーメンをすする。家内はコーヒー。



次にこの駅にやってくるのは観光列車「流氷のろっこ号」。

みんなそれがお目当てはそれらしい。ぼくも マニヤよろしく櫓に乗って写真撮って 汽車に飛び込む事にする。みんな 汽車が駅に入るちっと前の一瞬にかけて シャッターをきる。



知床の山々・氷海のオホーツクをバックに走ってくる「流氷・ノロッコ」号 2004.3.7.

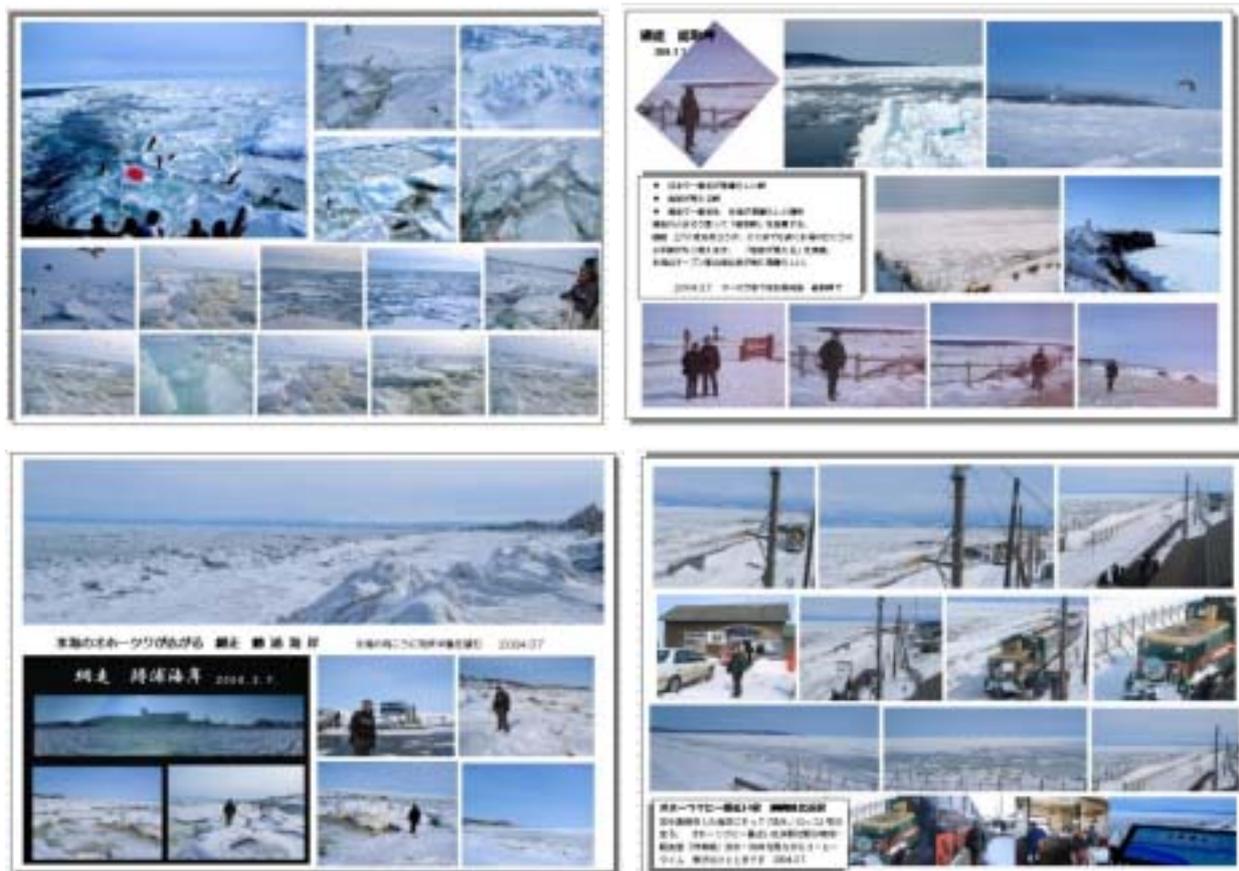
念願の流氷 Walk。やっとかないました。
 夜行列車の駆け足でしたが、ツアーに入らぬ気楽な風来坊。
 船と岬と海岸で流氷はそれぞれ違った表情を見せてくれました。
 本当に美しい景色と共に北国の冬の厳しさを見たように思います。

「流氷とけて 春風吹いて ハマナス咲いて カモメもなくて・・・」
 「宗谷岬」の歌が ふっと心地よくよぎりました。

流氷とけて 春風吹いて ハマナス咲いて カモメもなくて
 はるか沖ゆく 外国船の 煙もうれし 宗谷(そうや)の岬(みさき)
 流氷とけて 春風吹いて ハマナス揺(ゆ)れる 宗谷の岬

早く「海が開く」こと願っています。 虫の良い風来坊ですが・・・本当にそんな気がします。

2004.4.7. 網走から札幌へ向う汽車の中で by Mutsu Nakanishi



網走 流氷探訪 アルバム 2004.3.7.

1. 氷海を切裂いて進む砕氷船「オーロラ号」 砕氷船
2. 流氷原の向こうに地球が見える日本一冬が美しい能取岬
3. 流氷に埋め尽くされた オホーツク 鱒浦・北浜海岸 流氷の上を Walk

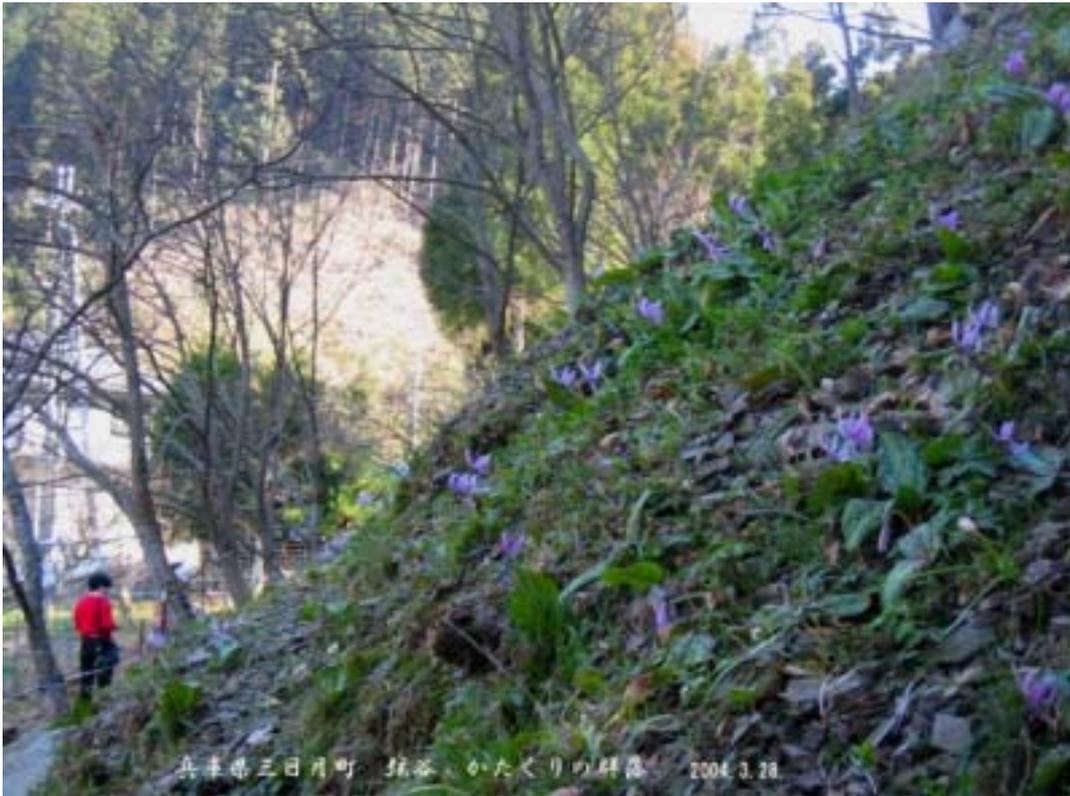
【完】

by M. Nakanishi 2004.4.1.

春風にそよぐ「かたくりの花」に出会えました

3.

兵庫県三日月町 弦谷 かたくり自生地で 2004.3.28.



静かな山裾で ひっそりと からだをゆすって

春風を満喫する 可憐なピンクの花に 魅せられています



かたくりの花

ピンクの可憐な花が山裾の林の中にそっと咲く

花言葉は「初恋」「さびしさに耐える」

山裾の傾斜地などに自生し、

夜の間は花びらをたたみ、頭を垂れるが、

陽光がさし、気温が17度以上に上がると花を開く。

冷たい雨や気温が上がらなければ眠り続ける。

花が咲くのは春先の2週間ほどの短い期間。

でも、種から花を咲かせるまでには7～8年もかかり、花が終わると茎も葉も無くなる。

夏から冬の間は地上から姿を隠してしまう。

片栗粉のかたくりで名前はお馴染みなのですが、なかなか根付かず、保護された自生地でないとなかなか見られない。

昔は、鱗茎から良質のデンプンがとれ、その名が残

っているのですが、現在はジャガイモやトウモロコシのデンプンが代替品。

その可憐な花が風にゆれるのを見たいと思いながら、昨年も時期を逸して見られず。二年越し。

人気の花で短い期間に多くの人が出かけると聞いていたので

咲き出したらすぐにでかけようと・・・。

今年は是非に・・・と関西の桜が咲き出したのを聞いて、い
の一番、北播磨三日月町の弦谷の自生地ですと見ることが出来
ました。

関西では兵庫県丹波 氷上町清住の自生地が有名で三日月町の
前に出かけたのですが、まだ時期早く駄目。

次週 3月28日の日曜日 ぽかぽか陽気にチャンスとばかり
「三日月町の2ヶ所 丹波よりも南 咲いているかも・・・。
場所だけでも確認 」と家内と出かけました。



三日月町本郷の自生地はやはり時期が早く駄目でしたが、弦谷
の自生地ですと群生して咲くかたくりの花に出会えました。

あまり知られていないのとやっぱり咲きはじめて人もパラパラ。本当にラッキー。
花に近づいて、かたくりの目線で風を感じたり、自生地の林の中をゆっくり歩いて 楽しんで帰りました。

200403.28. M. Nakanishi



静かな山裾で ひっそりと からだをゆすって
春風を満喫する 可憐なピンクの花に 魅せられています

かたくりの花 2004.3.28. 兵庫県三日月町で



2004.4.1. M. Nakanishi



花の都 フィレンツェ 2004.5.16.



水上の町ベニスで 2004.5.12.

5月10日から20日まで11日間ほどイタリアの街を訪ねるツアーに参加。

ミラノ・ヴェネチア・フィレンツェ・アッシジ・ローマの街を訪ねてきました。キリスト教と教会漬けの旅でしたが、勝手気ままなツアー 本当楽しい旅。

やっぱり みんなが言うように フィレンツェの街 ビックリする美しさでした。

のどかな丘陵地の丘の上にある宗教都市・聖サンフランシスコの町「アッシジ」も素晴らしかったです。

また、知らなかったミケランジェロ レオナルド・ダ・ヴィンチ ラファエロ ガリレオなどフィレンツェでの接点と意外な側面も。

30年前 初めての出張でひとりローマに1週間に居たことがあるのですが、現地の人に連れて行ってもらった 下町のレストラン 30年前貰ったカード片手に家内と探し当て訪ねました。

同じカードが今も使われていて マスターや街の人やちょうどアメリカ人のぐるーぶや街の人や一緒になって歌つて盛り上がりまして。

ぼくらのツアーコンダクターが次ぎの言葉をくれましたが ほんとうにそんな感じです。

イタリアの街何年経っても変わらない。

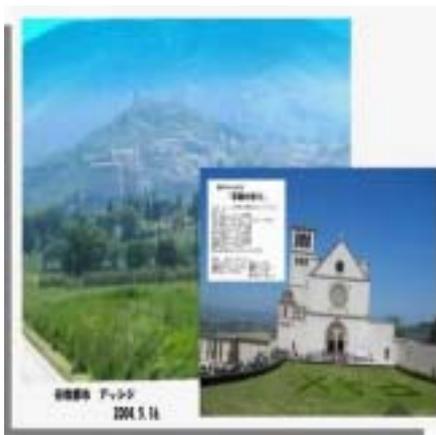
親が自分の行った場所を子供に伝えて そして孫に。

みんな 何十年の時を経て、同じ場所に立って同じ写真が撮れ、感激してそれを次の世代に伝える。

イタリアはそんな素晴らしい街

お陰で写真ばかり撮ってかえったので その整理に3週間もかかって、その間何にもてずかすで・・・ 恥ずかしいのですが、そんな写真整理しましたので、1,2ヶ月くらい home page に掲載します。

まだちょっとイタリアかぶれが、のこっているかも・・・



アッシジ 2004.5.16.



このイタリア旅行記は「イタリア旅行記」イタリアの古き町訪ねてイタリアルネッサンスの巨人の足跡として、別冊にまとめています。

1. イタリアの古き町を訪ねて walk (概要 PDF file) 2004.5.11.-20.

訪問先欄の都市名をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

訪問先	walk points	滞在日
↑↑ ミラノ Walk	ドゥオモと「最後の晩餐」	5.10.夕 - 5.12.朝
↑2 ヴェニス Walk	ゴンドラと水上の街walk	5.12.昼 - 5.14.朝
↑3 フィレンツェ Walk	花の都walk 街とルネッサンス	5.14.朝 - 5.16.朝
↑4 ピサ半日ツアー	ピサの斜塔とガリレオ	5.15.午後
↑5 アッシジ Walk	聖フランシスコを訪ねて	5.16.終日
↑6. ローマ Walk	ローマWalk パチカンと街角	5.18.夜 - 5.19.朝
↑7 カプリ ツアー	海の青・街の白・山の緑 カプリ島	5.18.終日
教会にこだまする響き	ピサで素晴らしい響きの歌声が採れました	ピサの教会ドームに響く歌声

2. イタリア ルネッサンスの巨人の足跡 (概要 PDF file)

● 巨人の足跡

2. ルネッサンス 巨人の足跡	フィレンツェで興いあった巨人たち	レオナルド・ダ・ビンチ ミケランジェロ ラファエロ ガリレオ・ガリレイ
2.1 レオナルド・ダ・ビンチ	天才画家・多能科学者 実証近代科の天才先駆者	飛船右知 巻頭の騎兵 セナリザ
2.2 ミケランジェロ	天才芸術家(画家・彫刻家・建築家)	ダビデ像 ピエタ像 最後の審判
2.3 ラファエロ	聖母画家 西洋絵画の基準	ヒワの聖母 少年10世
2.4 ガリレオ・ガリレイ	近代科学の父	姉妹凱・孫り子の考案性・ピサ斜塔の落下実験

● イタリアの街角で巨人を訪ねて

- 3.1 **レオナルドダビンチ 「最後の晩餐」 画家を訪ねて ミラノ**
- 3.2 **天才芸術家・科学者 ミケランジェロの作品をフィレンツェ・パチカンの街に訪ねて**
- 3.3 **聖母画家 ラファエロ 「ヒワの聖母」をフィレンツェ ウィッツイ美術館に訪ねて**
- 3.4 **近代科学の父 ガリレオ・ガリレイをピサの街に訪ねて**

項目をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

イタリアの街角で 知らないのは僕だけかも・・・



びっしり詰まった縦列駐車 ローマの街で 電車・車・三輪車・バス・自転車 平面通行 ミラノで

知らないのは僕だけかも知れませんが イタリア ミラノについたら 目と鼻がおかしい。

花粉症の症状。恐る恐る聞くとイタリアは花粉症 大有りと。乗ったバスの運転手氏も花粉症で涙だしていました。ミラノの町は ちょうど ポプラの綿が飛ぶ季節。

風花のように 白い綿毛が 街の空を飛び交っていました。

ついでに 日本に「黄砂」があるように イタリアでは「サハラ」の砂が飛んでくると 車がすすけているのもそれだというのですが、国民性かも・・・

イタリアの町に並ぶギシギシ隙間の無い縦列駐車。どないして 車だすねんと・・・

「今日 車出すのに 友達のベンツにちょっと挨拶したら 凄く怒られた。バンパーは何の為にあるのか・・・と言うのですがね」という御仁が 神戸の友達にいて「そんなあほな・・・」といていましたが、イタリア あちこちで、僕の見てる前で前後の車に挨拶して広げて縦列駐車から離れてゆきました。ゴリツパ となにか 感激

イタリアの古い街 フィレンツェも ミラノも ローマも 城壁の中の旧市街地 車規制もそうですが、まったく新しいデザインも高いビルもなし。一戸建ての家もなし。

高層ビルのオフィス街も派手なビルもなし。みんな昔のビルに埋もれて・・・

昔から 大きな高い建物は教会のキョポラと鐘楼。それより大きいのが変わった建物建てるとうっ壊されたという。そんな 都市国家 ホテルだけでなく 宮殿までもが・・・

生活は外から見ると大変らしい。

「電子レンジでチンする」といった文化なし。クーラーも洗濯機もままならぬ。

テレビと一緒にみんなつけたらヒューズ飛んでしまうそうである。電化生活したかったら郊外へというのだそうだ。

でも みんな 街に住みたがる。「街が好きだから 街を愛しているから」だそうだ。

そういえば 大きな工場も無く、高速道路はあるが、物流が頻繁とも思えない。経済本当にまわっているのか。。。と

でも 生活厳しいようですが、みんな陽気で楽しそう。昔みたいに 公園で寝てる人 見かけない。

「みんな 先考えず 今を楽しんでいるからや みんな 今 楽しんでいる」という。不思議である。よくよく聞くと 大企業はそれこそフィアットグループ程度でそれもダウン。95%が中小地域企業。若くしてみんなその町で働く。大学出は15%程度。1/3は中学出ると直ぐ街で働くと。それほど街を出ないし、通勤族など考えられないという。

これで僕の疑問も解消。

都市間交通 物流も地域で動けばよい。中央のオカミいらぬ。わが街を愛すである。大多数の人たちにとっては、都市国家が今も生きている。ちょっと 考えさせられました。

日本でも 今スローライフが叫ばれ、価値観が変わりつつありますが、価値観がこんなに生活変えているとはビックリでした。

梅雨の合間 久しぶりに東京・柏の仲間と会ってきました。

帰りに、朝一番の新幹線に飛び乗って長野へ

きっちりとした装備していなかったので、戸隠の縦走は出来ませんでした。戸隠の原生林の森に入って一日森林浴。若緑一色の森に入るとほっとします。

また、戸隠奥社の森には樹齢600年以上の杉の並木道が残っていました。これだけ大きいとやっぱりすごいです。小鳥の声と湿原の水のせせらぎ聞きながらゆつたりと・・・



信州 戸隠山山麓 戸隠神社 奥社・鏡が池・森林植物園周辺 2004.6.19.

鋸歯のように尖った戸隠の峰々 ここは古くから知られた修験道の山

やっぱり、湿原の水溜りには鉄分がしみだし、赤茶けた水が溜まっていました。

湿原に生える葦などに吸い寄せられる鉄分がそれらが堆積してできる「高師小僧」「鬼板」「すず」各地に残る古い宮の「鈴・すずの神事」は この植物の根に吸い寄せられた鉄に起源をもつという。

最近頭に描いているのですが、

「たたら製鉄」の前、「野だたら」の時代に朝鮮半島からの高品質の鉄輸入と平行して、この草木の根に溜まった褐鉄鉱を使って製鉄がトライされていたのではないか。。

各地に残る「すず神事」ならびに神話・古事に残る伝説そして「たたら」製鉄とはいまだ無縁の地にある製鉄関連地名などがこの品質はよくないが比較的低い温度で精錬がスタートする可能性がある褐鉄鉱を使った鉄精錬地と関係するのではないか

この日本先進の技術と後から半島から入ってきた鉄の技術 それらが競争・融合して「たたら製鉄」が構成されたのではないかと。そう考えると日本誕生にかかわる数々の謎が見えてくるように思います。卑弥呼につながる鉄 じっくり考えたいと思っています。



6.

花の北海道 礼文島・富良野 美瑛・天塩 アルバム 2004.8.5.



利尻富士
2004.7.27



礼文島北海岸より花の浮島



美瑛の丘
2004.7.29.



礼文島サロベツ原野
2004.7.31.

7.26.-8.3. 札幌の娘一家を訪ねると共に夏 花の北海道 満喫してきました

宗谷海峡から利尻・礼文は霧に包まれ、海と利尻富士と花の組み合わせは見られませんでした。念願の「花の浮島 礼文島」霧の中のトレイルを歩き、霧の崖に咲く礼文ウスユキソウや伊吹トラノオ 礼文ノコギリソウなど満足でした。

北海道の道の駅 スタンプ帳を持って みんなスタンプラリーに興じている。道の駅が開くのを待つ光景にはビックリ。一連のスタンプを完了すると何かもらえるようですが、北海道の道の駅 僕の知っている道の駅とは少し違って楽しみも多くみんなが楽しめる面白いパーク さすが観光地 北海道。新しい観光見たように思います。北海道 道の駅 全部で100ヶ所足らず。

娘一家もはまっていて 一緒に一日 天塩・宗谷 まわりましたが、後は網走地区回れば完成と。。。。

また きっちりまとめますが、まずはトレトレの写真のみです

1. 花の浮島 礼文島 2004.7.29.

霧の中お花畑が続くトレイル 礼文固有種の花々が美しい姿を見せてくれました

こんな霧の礼文も平地が広がる北側海岸からは礼文岳や海越しの利尻富士が眺望できました





2. ラベンダーの丘 美瑛・富良野 & 噴煙を上げる十勝岳 2004.7.27.

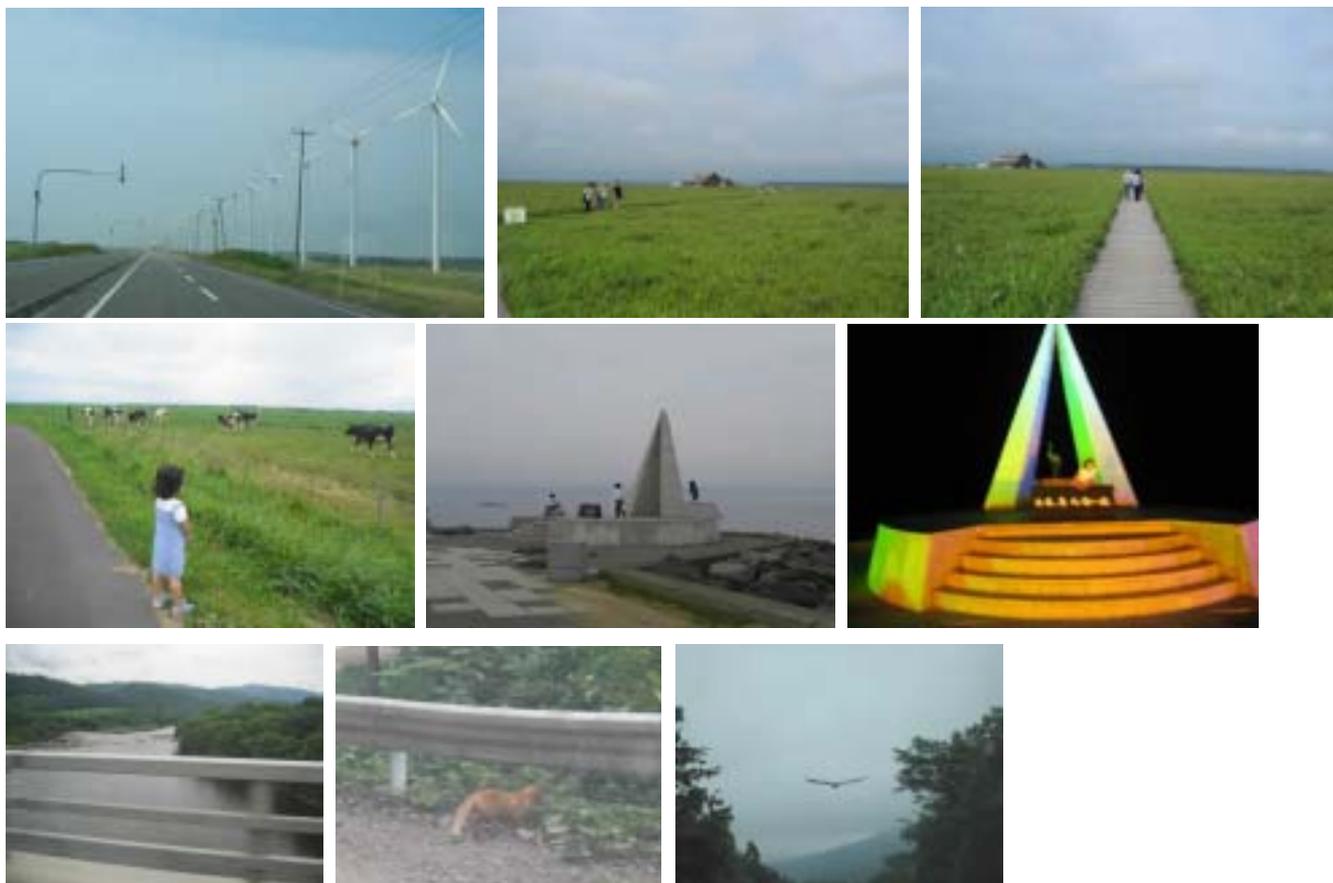


3. 宗谷・天塩・サロベツ原野 2004.7.31. & 8.1.

旭川から宗谷へ

天塩川がのたうちまわって北へ流れ、サロベツ原野や猿払原野が広がり、その先に稚内・宗谷岬 日本の最果て宗谷岬には一晩中 霧笛が鳴り響いていました

きた、帰りに通った天北峠の山中では 北キツネを見かけました



by M. Nakanishi 2004.8.5.

2004 夏 花の北海道 walk 2004.9.1

7.

礼文島・美瑛の丘・天塩/宗谷 アルバム



2004 夏 花の北海道 walk 礼文島・美瑛の丘・天塩/宗谷 アルバム



- 美瑛の丘 花の浮島 礼文島 サロベツ原野 2004.7.31.
1. 花の浮島 利尻島 Walk 2004.7.29.
 2. ラベンダーの丘美瑛と十勝岳 2004.7.27.
 3. どこまでも原野ひろがる宗谷・天塩 2004.7.31-8.1

7.26.-8.3. 札幌の娘一家を訪ねると共に夏 花の北 海道を満喫して帰りました。
 花の浮島 礼文島を中心に「2004 夏 花の北海道」のアルバム づくりしました。



利尻・礼文へのフェリーが出る 稚内 JR 宗谷本線 日本最北端の駅

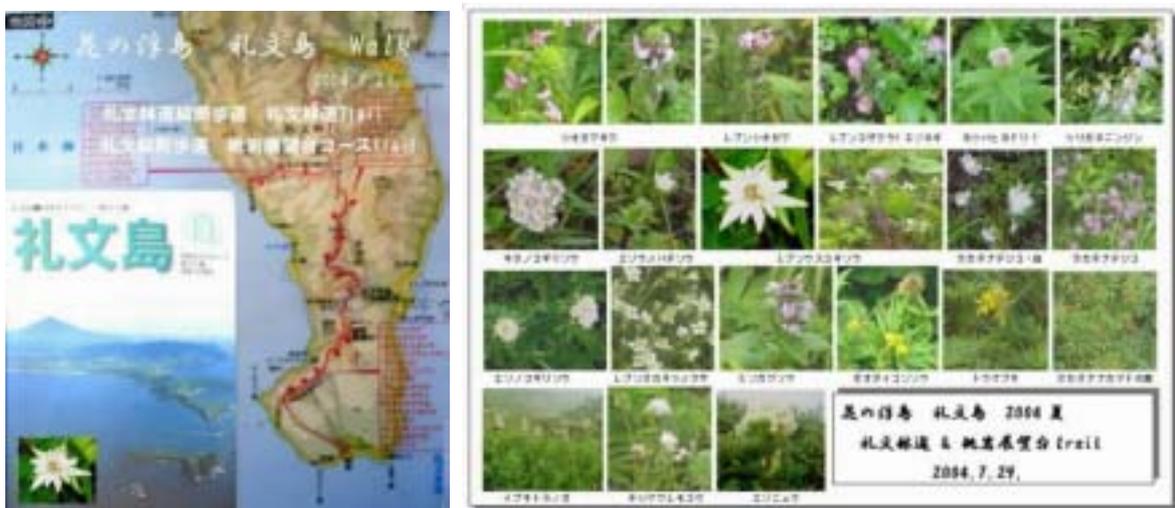
7.1. 花の浮島 礼文島 Walk 2004.7.29.



宗谷海峡か ら利尻・礼文は霧に包まれ、残念ながら「海と利尻富士と花」の組み合わせは見られませんでした。念願の「花の浮島 礼文島」。霧の崖に咲く礼文ウスユキソウや伊吹トラノオ 礼文ノコギリソウなど数々の高山植物が咲き乱れるお花畑 本 当に印象的でした。

こんな霧の 礼文島も 平地が広がる北側海岸からは 快晴の空に浮かぶ礼文岳や海越しの利尻富士が眺望 できました。キツネにつままれたようでした。

霧の中にお 花畑が続くトレイルと利尻富士の眺望。すばらしい花の浮島でした。



2004.7.29. 早朝 稚内から礼文への船からは海に朝霧が立ち込め、いつとき 霧の上に浮かぶ利尻富士が見えましたが、利尻/礼文の水道はただよう霧海の真っ只中。まったく礼文島が見えないまま礼文島へ。入港した礼文島香深の港は霧の中。

宿とれず、今回は礼文に一日だけいて、稚内夜行特急で札幌まで帰る計画。

今週はずっとこんな霧だという。もう、安定期の天候になったと思ったのですが残念。

礼文岳から南へ花のトレイルを歩く予定でしたが、登るのをあきらめ、礼文島のお花畑の核心部「礼文縦断トレイル」の南半分 礼文林道から桃岩を通過して知床海岸まで霧の中 花を見ながらの花の walk をたのしみました。

また 以外にも 北 礼文の東海岸は快晴 霧の海にぽっかり浮かぶ「利尻富士」そして「礼文富士」の眺望もたのしみました。

観光バスの喧騒を覚悟でやってきたのですが、霧の中のトレイルの山道歩く人少なく 足元はどろどろになりましたが、goo でした。

花の浮島 礼文島 Walk

- 1.1. 礼文縦断歩道 礼文林道コースで 礼文ウスユキソウの群落へ
- 1.2. 礼文縦断歩道トレイル 桃岩展望コースで
- 1.3. 利尻富士を眺めに東海岸を北礼文へ



礼文島縦断歩道 桃岩展望コース お花畑で 2004.7.29.

1.1. 礼文縦断歩道 礼文林道コースで 礼文ウスユキソウの群落へ

まったく視界の利かない礼文林道を歩き出す。礼文島の中央の丘陵地を南北に走るなんとか車が一台通れる砂利道を歩き出す。この先にウスユキソウの群落があり、多くの観光ツアーの人々も歩くコース

であるが、雨と霧 早朝なのでまだ歩く人少ない。丘陵地の上なので海岸の海が見えるはずなのだが、まったく見えず。また、林道から丘陵地のとっぺんを通る歩道がいくつも枝分かれして、お花畑が見えるようによく整備されている。



不意に風が吹きつけ、崖の斜面一面に咲く花が霧の中に浮かんでくる。私は花の名前 まったく音痴なのですが、本当に沢山の花が緑の中に咲きみだれ、幻想的な風景を作っている。



礼文島中央の丘陵地を貫く遊歩道 礼文林道沿いの丘陵斜面・崖に広がるお花畑 2004.7.29.



多くの花に混じって 白い礼文ウスユキソウが点々といまを盛りに咲いている。
ひっそりと山の道端に数輪ひっそりと咲くウスユキソウにも感激しましたが、風が吹きさらす崖の緑の中にすっきりと立っているウスユキソウも本見事。
もっと背の低い花とと思っていましたが、礼文ウスユキソウは 周りの緑に負けじと背が高い日本最北のウスユキソウ。 思わず「来年もまた咲けよ」と思わず甲子園の気分。
「これに利尻富士が見えたら・・・」と思うのですが、それは欲張り。
本当に濃いこの植層はこの霧と雨が育てたのでしょうか・・・

霧雨の中 静まりかえった山道で「コンニチワ」と声掛け合う人みんな仲間。
「散策路の道端に咲くノコギリソウは2種 白いのと少し紫があったものあって、葉っぱのノコギリの歯の深さが少し違う」と花に顔を近づけているカップルに教えてもらいました。



キタノコギリソウ と エゾノコギリソウ

タカネナデシコ と 珍しい白のタカネナデシコ

花の名前は苦手。どれもこれも図鑑で知った名前に見えてくる。

花のはじめ 盛りで色も変わってくるし、見た目だけではパンザイです。

また 「タカネナデシコの中に白のタカネナデシコ これは珍しい花」

「こんなゆっくりできる WALK も霧雨のおかげ」と 高山植物監視員の方が笑って教えてくれました。

ぶらぶら歩いていたら霧も時間と共に晴れるかと思いましたが、今日はダメ。

益々 霧が深くなって、約1時間ほどで礼文滝の別れまで行って、もう一度ウスユキソウの群落の崖へ引き返す。

【礼文林道 ウスユキソウの群落で 2004.7.29.】



礼文林道 レブンウスユキソウの群落で 2004.7.29.



東北の早池峰山・月山でウスユキソウを見ましたが、こんな濃い緑の中で背の高いウスユキソウが 群落を造っている姿は初めての体験。
 「露が付いて 山道でそっと光る可憐なウスユキソウが一番」と良くいわれますが、冷たい風が吹きすさぶ霧雨の崖に林立するウスユキソウの姿にもまた別の一面みた気がします。
 これが北のウスユキソウでしょう。

【知床林道コースのお花畑で 2004.7.29.】



1.2. 礼文縦断歩道トレイル 桃岩展望コースで



元地林道口までもどって、ドライブウェイを最も有名な「桃岩展望台」へ登ってゆく お花畑と海の向こうに利尻が浮かぶ礼文島の有名なビューポイント。

でも 今日霧雨で何も見えず。人の行列と聞いていましたが、今日ばかりは誰もいない展望台では風をよけながら 残念そうに利尻の方向の 霧の海を眺めている。



霧の中の桃岩展望台周辺で 2004.7.29.

左：桃岩展望台

右：香深-元地ドライブウェイの峠

桃岩展望台への上り口

桃岩展望台から丘陵 地の丘を伝って南の海岸知床集落までのトレッキング路が始まる。

香深の案内所では「今日の天候では無理。 道が悪くて勧めない」と聞いた。

でもせっかくの礼文縦断トレイルの縦走と迷っているとこのコースを 向こうから一人登ってくる。

「すごいぬかるみの山道 だろどろになること覚悟なら素晴らしいよ 滑り止めの杖あれば楽々」と。

この声に励まされて 霧の中 礼文縦断歩道の終点 南端の知床へ向いて歩き出す。



お花畑の中にぬかるみの道が続く桃岩展望トレイル

もう 一週間になるという霧雨の天候でスタートから道は 最悪。

礼文林道が一般道兼用なので丘陵地の斜面を横切っ てゆくコースであったのですが、こちらは 丘陵地のテッペンを縫ってトレイルがついて、常に空がひろがついて感じがまったく違うので気分的には楽。

道の両側のあちこちで素晴らしい景色。

晴れていれば素晴らしい展望コースであろう。



知床縦断歩道 桃岩展望コース エゾニュー イブキトラノオ トオ ゲブキなど色とりどりのお花畑

他の花より背の高い立派なエゾニューがお花畑の 監視員のごとく周りを見下ろして立ちイブキトラノオ トオゲブキなど色とりどりの花が咲くお花 畑が崖に沿って続く。

霧の中だけに 背後の景色が消されて 一層幻想的。

悪路と悪戦苦闘であるが、素晴らしい。人がいないのでなおさらである。



知床縦断歩道 桃岩展望コースで 【1】 2004.7.29.



知床縦断歩道 桃岩展望コースで 【2】 2004.7.29.

【 知床縦断歩道 桃岩展望コースで 2004.7.29. 】



素晴らしいお花畑に見とれながら 丘陵地の起伏を登り降りの約1時間、霧の中に元地灯台が見え出すと このトレールも終わりに近い。灯台から約30分で海岸沿いの知床集落に下りる。



霧の元地灯台



礼文島の南端 知床集落と霧に煙るその海岸



2004.7.29.

海岸におりても利尻島との間に広がる礼文水道は霧の中。まったく利尻島も利尻富士もみえず。礼文島の西側は断崖が続くのでこの知床集落から西側には海岸道路はなく行き止まりである。ちょうどその崖の上に広がるお花畑を下ってきたのですが、その時はまったくわからず。日本海の荒波に洗われるため砂浜はなく、護岸が続く香深港への海岸道路に沿って崖にへばりついて漁港と集落が続く。

道路の海側護岸との間は10メートル程の幅に小石が敷き詰められている。

はじめよくわからなかったのですが、利尻昆布の干場。ここは利尻昆布と礼文ホッケ・礼文ウニブランド品の産地。

「バスの都合つけば北礼文へ行こうか・・・まずは礼文のウニ丼食べて」

約1時間弱 崖と海岸沿いの家並みを眺めながら香深の街へ



香深の北でバスより見た 昆布干場

1.3. 利尻富士を眺めに東海岸を北礼文へ

夕方の船までまだ時間があり、何処へ行こうかと思案していると「香深の街を抜けて北礼文へ東海岸を走ると北は快晴 霧の海の上に利尻富士が浮かんでいる」「北礼文まで送ってきたとこだから大丈夫 我々しか知らん情報や」とタクシ-の運転手氏がいう。

「そんなこと誰も朝いわなかったよ」狐に掴まれた気分で「利尻富士・礼文岳が見えるところまで 走って・・・」と。

15分ほど走って 香深井 礼文林道の海岸起点のあたりから明るくなり、日食観測記念碑をと



おって、礼文岳の登山口内路にくるとくつき 礼文島 東海岸 内路近傍から 香深方面りと青空海面にただよっていた霧も切れ、南礼文のあたりとこんなにも違うのかとビックリする。



東海岸 内路からみる利尻富士 2004.7.29.

東の海 雲の向こうにぼっかりと利尻富士が 浮いている。 車をとめて利尻富士の写真をとる。もう少し北に行けば湖越しに礼文岳が見える と聞いて久種湖・船泊の海岸まで走ってもらってタクシーを降りる。本当にビックリするような快晴の空に浮かぶ 礼文島・利尻富士を見ることができました。



久種湖から見る礼文岳(右手)
左手の向こうに利尻富士が頭を出している



久種湖周辺から見る礼文岳
2004.7.29.

どうも霧は日本海側 利尻水道や利尻等と礼文島との間の礼文水道一体の 海面で発生して 礼文島の山岳部である南礼文・香深から西海岸沿いに漂っているようだ。
北礼文の西海岸側の先端 スコトン岬にもぎっしり霧が漂っている。



船泊の海岸でバスを 待つて、海に浮かぶ利尻富士を見ながら香深の港まで帰ってきましたが、香深に近づくにつれ、やっぱり霧の中。北の海の厳しさも垣 間見たような気がします。

稚内へのフェリーを待つ間 香深の港で霧の海を 眺めつつ、名物の「うに丼」を食べる。
夜明けからの礼文島の日 目いっぱい お花畑を歩いた一日でした
ついでながら また 礼文でも忘れ物
乗り合わせたタクシーにスティック忘れたのですが、観光案内所に届いて いました。



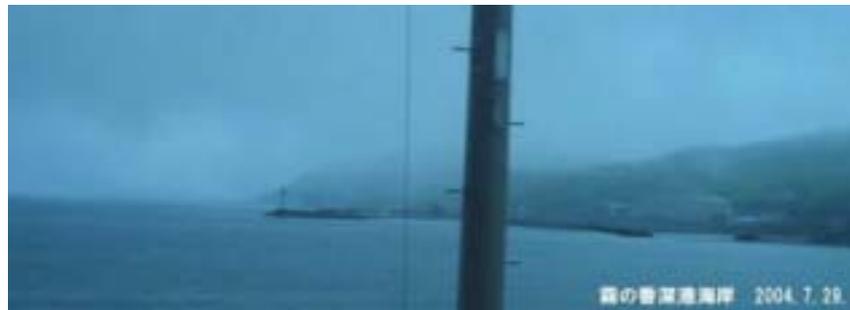
【バスの窓から見る利尻富士 北礼文東海岸より 2004.7.29.】



【 バスの車窓より 霧の香深港 海岸】



【バスの窓から見る利尻富士北礼文東海岸より 2004.7.29.】



【 バスの車窓より 霧の香深港 海岸】



「花の浮島 礼文」本当に素晴らしい花の島
島の人たちが言うように 霧で 人が少なくてよかったのかも。。。
でも 利尻富士が花の向こうに浮かぶ景色 も一度見て見たい

2003.7.29.深夜 稚内発の夜行特急「利尻」の中で

by Mutsu Nakanishi



利尻・礼文へのフェリーが出る 稚内 JR 宗谷本線 日本最北端の駅

花の浮島 礼文島 Walk 【完】

2. **ラベンダーの丘 美瑛 と 十勝岳** 2004.7.27.



7.27. 札幌でぶらぶらするより、ラベンダーの咲いている美瑛の丘へ行きたいと家内が言う。
すぐ その話に乗って 27日レンタカーを借りて美瑛の丘へ行ってきました。
ラベンダーの季節にはちょっと遅かったのですが、ラベンダーの丘そして、この時期にしか見られない牧草のロール巻が点々と転がる丘 美瑛の素晴らしい丘の風景を見てきました。
また 今も噴煙をあげる十勝岳の中腹まで 登って 温泉に入って・・・
札幌からこんなに美瑛・富良野が近いなんて 本当にビックリでした。
その 美瑛・富良野の丘と十勝岳のアルバム です。

2004.7.27. 札幌にて Mutsu Nakanishi

礼文島・美瑛の丘・天塩/宗谷 アルバム

2. **ラベンダーの丘 美瑛 と 十勝岳** 2004.7.27.

2.1 美瑛の丘 パッチワークの路

2.2 美瑛 ラベンダーの風景

2.3. ラベンダーの丘 美瑛 と 十勝岳

2.2. 美瑛 ラベンダーの風景



美瑛 ラベンダーの風景 美瑛牛で 2004.7.27.





2.3. 十勝岳 望岳台周辺で



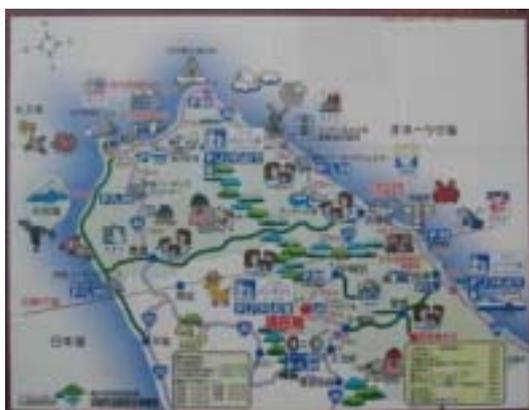


2. ラベンダーの丘 美瑛 と 十勝岳 【完】

宗谷・天塩・サロベツ原野 写真アルバム

3. どこまで も原野が広がる宗谷・天塩

2004.7.31. & 8.1.



宗谷 サロベツ原野

2004.7.31.

宗谷・天塩・サロベツ原野 写真アルバム

3.1. 日本海側海岸を留萌から 天塩・サロベツ そして 宗谷へ

3.2. 宗谷からオホーツク海側 猿払原野を南へ 猿払村

日本一の帆立貝と酪農の村

ホタテの海とオホーツク海開拓 の碑「いさりの碑」

3.3. 名寄・知恵文の「ひまわり畑」と 北見の山中で見たキタキツネ

天塩から宗谷へ 娘たち家族が一緒に行こうという。

娘たちは北海道道の駅のスタンプラリーをやっていて、泊まらないとつながらぬ天塩・宗谷が残っていると。僕も天塩・宗谷は空白。学生時代に利尻へ行った時も 早朝汽車の窓から原野をみただけで抜けている。

留萌から日本海側の海岸を天塩・宗谷へ

7.31.早朝 旭川・留萌から日本海側の海岸を天塩・宗谷へ 北へ北へと。。。。。。。

天塩川がのたうちまわって北へ流れ、サロベツ原野や猿払原野がえんえんと広がる。

さらにその北の先に稚内・宗谷岬。

日本の最果て宗谷岬には一晩中 霧笛が鳴り響いていました。

オホーツク海側を猿払へ

8.1.朝 オホーツク海に添って南へ 勇払の原野が広がり、海にはホタテの町猿払へ。

猿払の原野に広がる広い牧場に牛が遊ぶのを見て孫娘もおおはしゃぎ。

猿払の海岸に立てられた「いさりの碑」猿払の海開拓の宣言碑（昭和56年11月22日 猿払村漁業組合）には感激しました。

「..... 生物資源は自然と人間の適正な育成管理によって永續させることができる筈だ。

私たちも自然の摂理にかなった生物資源の育成管理を科学的に調査と陣地をあつめてやつてみた。

春夏秋冬 自然の摂理は一世紀の昔も今と変わりなく繰り返され生物の生命力は見事に部族と民族の反映に其の力強さを見せてくれた

今 オホーツクの海は先人の開拓した時のように帆立貝が見事に結実してたわわな実をみせている

..... 人間は神々とたたかうべきでない 人間は自然の摂理にしたがうべきだ」

と格調高く地球環境の共生を歌う

20世紀の大量生産、大量消費の時代から21世紀 地球環境優先への転換点にあつて まだ世の中が浮かれている時代に 最北の北海道でこんな格調高い地球環境優先・共生の理念と実践が進み、現在も「日本一の帆立貝の猿払」として栽培漁業の先端に立っている。

理念の重要性とその理念に基づく実践の確かさに本当にビックリです。

猿払の日本一のホタテを味わった後だけにひとしお。さっそく 日本一のホタテをみやげに

名寄・知恵文 そして 北見へ

猿払から内陸部に入つて名寄に「知恵文 ちえぶん」という地名がある。「ちえぶみ」と読むと聞いていなんと美しい響きと.....実際には「ちえぶん」とよむのだそうですが、そのひまわり畑も素晴らしい景色でした。その名寄から紋別の方向へ再度向かつて北見へ 峠越の興部へ。その北見山中では 北キツネを見かけました。

仕上げは 旭川のラーメン有名店「橙」でラーメン食べて帰路へ

テレビで何度かラーメンツアーをやっている人しつていましたが、まじかに見ました。

いっぱいのカウンター 僕の隣で 実際に隣の人に挨拶して儀式やってから ラーメン食べる人達。

そんな人たちが何組か 混じっていました。ビックリ。

ラーメンはおいしかったのですが、暖房付というほどの汗かく ラーメン専門店というのもちょっと考えますね

まったく 知らなかった北海道北部 一日 道の駅をベースに宗谷・天塩・北見を訪ねるスタンプラリー。北海道の道の駅は大きく特徴のあるテーマパークばかり。北海道ならではの面白い体験でした。

札幌で乗ったタクシーの運転手氏いわく。

札幌から天塩から宗谷・稚内まで 5時間 何度か長距離ドライブ

まったく人も家もない 何にもなしの 自然のまま。

飯食べる店もなし。でも 好きな人はたまらない。

お客さん乗せて行くときはいいのだが、 帰る時は「もう たくさん」と。

でも また こりもせず 出かける 素晴らしいところ・・・と

2004 夏 花の北海道

娘一家のいる北海道ですごした花の旅 本当に素晴らしい夏でした

2004.9.1. 神戸にて Mutsu Nakanishi

3.1. 日本海側海岸を留萌から 天塩・サロベツ そして 宗谷へ 2004.7.31.



どこまでも原野がつづくサロベツ原野 2004.7.31.



留萌-天塩-宗谷の浜街道は日本有数の風力発電地帯
28基の横延風力発電群 2004.7.31.



留萌-天塩-宗谷と続く日本海側海岸線は風力発電銀座 2004.7.31.



どこまでも原野がつづくサロベツ原野

宗谷岬で



「流水越えて・・・」宗谷の岬のメロディーが鳴り響く 霧の宗谷岬 2004.7.31.

3.2. 宗谷からオホーツク海側 猿払原野を南へ 猿払村 2004.8.1.
日本一の帆立貝と酪農の村 ホタテの海とオホーツク海開拓の碑「いさりの碑」

猿払の原野に広がる牧場 2004.8.1.

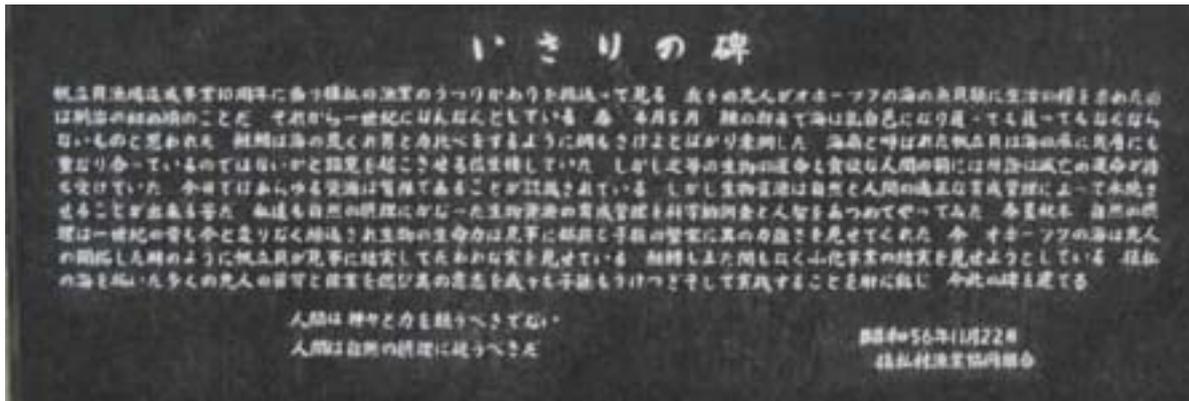


猿払村町営牧場で 猿払原野 2004.8.1.

ホタテの海とオホーツク海開拓の碑「いさりの碑」



宗谷 オホーツク海 日本一の帆立の海 猿払村 2004.8.1.



我々の先人はオホーツクの海の魚介類に生活の糧を求めたのは明治の初めのことだ。それから一世紀になんなんとしている。

春 4 月 5 月 鯨の群来で海は乳白色になり獲っても獲ってもなくならないと思われた。鮭鱒は海の荒くれ男と力比べをするように網もさけよとばかり来網した

海扇と呼ばれた帆立貝は海の底に幾層にも重なり合っているのではないかと錯覚を起こさせる位生棲していた。しかし之等の生命の運命も貪欲な人間の前には所詮は滅亡の運命が待ち受けていた。

今日ではあらゆる資源は有限であることが認識されている。しかし 生物資源は自然と人間の適正な 育成管理によって永続させることができる筈だ。 私たちも自然の摂理にかなった生物資源の育成管理を科学的に調査と陣地をあつめてやつてみた。春夏秋冬 自然の摂理は一世紀の昔も今と変わりなく繰り返され生物のの生命力は見事に部族と氏族の反映に其の力強さを見せてくれた

今 オホーツクの海は先人の開拓した時のように帆立貝が見事に結実してたわわな実をみせている 鮭鱒もまたまもなくふ化事業の結実を見せようとしている

猿払の海を拓いた多くの先人の苦勞と偉業をしのび其の石を我々も子孫もうけつぎそして実践することを肝に銘じ 今此の碑を立てる

人間は神々と力をきそうべきでない
人間は自然の摂理にしたがうべきだ

昭和 56 年 11 月 22 日 1981.11.22.
猿払村漁業協同組合

注 1980 年代は高度成長の真っ只中 1986 年から 1989 年 4 年間はバブル時代

1980 年代の日本は、世界でも有数の工業国として空前の豊かな社会を実現しました。鉄鋼、家電製品、自動車やエレクトロニクスといった分野の輸出が大幅に伸び、日米で経済摩擦が起きるほどの貿易黒字をこの時代には計上しています。

昭和が終わった 1989 年を例に取ると、この年の貿易黒字は 640 億ドル、国民総生産(G N P)も約 420 兆円と初の 400 兆円台に到達。1980 年の 290 兆円から 10 年間で 130 兆円も増えています。

一方では、地球規模でさまざまな環境問題が深刻化し、中でも地球温暖化問題については 1980 年代後半から議論が開始され、1990 年代から世界各国が協力して取り組むようになりました。

何も対策をしないと深刻なダメージを受けるおそれが現実化し始めた時代。

しかし、日本の世相は 1986 年から 1989 年 4 年間はバブル時代と呼ばれる日本が狂った時代でした。20 世紀の大量生産、大量消費の時代から、21 世紀は地球環境優先への転換の時代。まだ世の中が浮かれている時代に 最北の北海道でこんな格調高い地球環境優先・共生の理念と実践が進んみ 現在も「日本一

の帆立貝の猿払」として栽培漁業の先端に立っている。

理念の重要性とその理念に基づく実践の確かさに本当にビックリです。

金融・政治・工業界において 今「口先」だれの対応が横行する中 プロの対応とは何かを見せられた気がします。

当時は自分も本当に新しい事業開発に向かって必死であった時代

それがバブルだったのか 地道な発展だったのか・・・悩むところです

3.3 名寄・知恵文の「ひまわり畑」と 北見の山中で見たキタキツネ 2004.8.1.



北見山中で見たキタキツネ

ついでながら、紋別・旭川自動車道 東の北見山脈から北見峠を越えて上 川・旭川盆地にでる手前「白滝」。ここに珍しい高速道路の道の駅「白滝」がありました。

大雪山系と天塩山系が重なる山中なのですが、その案内板に この山中が黒曜石の産地「白滝」であることが書かれていました。

旧石器の時代から貴重な刃物の材料「黒曜石」の提供地「白滝」。信州の和田峠と並ぶ貴重な産地として何度か本でよんだのですが・・・

今回は現地までよう行かなかったのですが、ぜひ知ってみたいところです。



■ 史跡 白滝遺跡群 (国指定)

【指定年月日 平成元年1月9日】
 【所在地 白滝村字上白滝184番地】
 白滝遺跡は旧石器時代の研究史上、著名な遺跡であり、東北日本の礫石文化を代表する湧別技法と呼ばれる特殊な製作法の存在が出土遺物によって明らかにされています。
 これに関するものは広く東シベリア、沿海州、カムチャッカ半島、アラスカ地方にまで分布しています。
 また、この遺跡は黒曜石産地の近くに立地しており、原石から製品完成までの過程が遺物によりわかります。
 遺物については白滝村郷土館において展示しております。TEL:584-6270

紋別・旭川自動車道上の道の駅「白滝」白滝村案内板でみた黒曜石の産地「白滝」

また、「美瑛の丘」ジャガイモ畑の中の道には 雨の流れ道に砂鉄がいっぱいたまっていました。

大雪の山並が噴火で地下のマグマが噴出して作った鉱物資源

北海道の昔の鉄づくりについては良く知らないが、一度どこかの博物館で氷原の小屋の中で鍛冶鍛錬する 北

方の鍛冶の絵図を見たことがある。この地にもそんな歴史があるかもしれない。



美瑛の丘 雨水の流れ道に堆積した砂鉄 2004.7.27.

宗谷・天塩・サロベツ原野 写真アルバム【完】

2004 夏 花の北海道 礼文島・美瑛の丘・天塩/宗谷 アルバム【完】

1. 花の浮島 利文島 Walk 2004.7.29.
2. ラベンダーの丘美瑛と十勝岳 2004.7.27.
3. どこまでも原野ひろがる宗谷・天塩 2004.7.31-8.1.

8.

2004 秋点描 関西で 2004.10.2.



久しぶりの大阪 天王寺美術館界限と大阪城

きんきらきに輝く 大阪城 知りませんでした・・・

子供の頃 休みに連れて行ってもらうのはいつも天王寺動物園から美術館界限か大阪城 本当に何十年ぶり

この9月 その周辺へ行く機会があって、ゆっくり歩きました。

そこへ行くまで、全く頭になかった記憶が次々と思い出されて・・・ボケてきた証拠かも・・・でも 本当に昔のことが鮮烈に思い出されて なつかしさ 一杯でした。



大阪市美術館で世界遺産に吉野・熊野が登録された記念の展覧会「祈りの道」を見に天王寺から美術館へ
テレビで天王寺公園が変わったことはよく知っていましたが、実際にこの界隈を歩くのは数十年ぶり。
美術館のある茶臼山と動物園・新世界を結ぶ階段から通天閣を見ながら、昔を思い出していました。
えらいもので 小学生の頃の記憶なんですが、美術館のすぐ下に野外音楽堂があって そこで大阪市の吹奏
楽団がいつも演奏。

動物園の象の前に石の象があつて いつもそこにさせてもらったことなどなど・・・

つつい懐かしくて、美術館・茶臼山の上をぐるっと回って 昔からある美術館前の階段を下って動物園を
横切って新世界へ・昔のコースを歩きました

吉野金剛峰寺の「蔵王権現立像」の迫力にも圧倒されましたが、久しぶりの美術館界隈の郷愁に浸っていま
した。



天王寺公園から阿部野橋・JR 天王寺駅



大阪市立美術館



大阪美術館と動物園・新世界をつなぐ坂道 今はアッパーデッキの道 向こうに通天閣

ちょっと時間があって 大阪城の中に入ってきました。

昔はもっとくすんでいたのですが・・・あんなに輝くきれいな大阪城 ほんまかいな・・・と。



まばゆいばかりの輝く大阪城 2004.9.22.

台風一過 真っ青の空と実りの秋の播州路

2004.9.29.



台風一過 久しぶりに 50cc バイクに乗って 神戸の裏道を秋の田園風景が広がる播州路を姫路へ。

実りの秋 真っ青の秋の空に 黄金の稲穂。

畦道に咲く赤のマンジュシャゲ そして山端の道にはススキの穂。

ほつと一息。心配した姫路の城も外から見る限り ok。

県立歴史博物館・市立美術館をのぞいて久しぶりに午後のランチを楽しむ

窓から見える公園の樹木が秋の絵そのもの。

久しぶりに一人の午後を楽しみました。



M. Nakanishi 2004.10.2.

熊本 菊池川流域の装飾古墳群・鹿児島 上野原縄文遺跡・宮崎 西都原古墳群



西都原古墳群 鬼の窟で 2004.10.7.

10月6、7日快晴 1泊2日の強行スケジュールで九州の縄文・古代遺跡を訪ねる旅に縄文・古代史の仲間約25名で出かけました。

発端は北九州の装飾古墳。北九州に古墳時代 高松塚古墳に先駆け、中国文化の影響(詳細な人物像 朱雀・亀・虎・蛇など高松塚やキトラ古墳に代表され、漆喰での上に描かれる)を受けない幾何学文様などの鮮やかな装飾壁画が岩壁に直接描かれた古墳群が現れそして忽然と消えた。

その代表が福岡県遠賀川中流の「王塚装飾古墳」や熊本県菊池川中流の「チブサン装飾古墳」。



熊本県菊池 チブサン古墳 内部壁画

教えてもらった時には、赤を貴重とした鮮やかな彩色と幾何学文様の不思議な魅力。

そして、文字がない前史とは言いながら、畿内にはすでに大和政権が立ち 色々なことが語られる時代に、まったくその古墳の主がわからないミステリーにビックリしました。この装飾古墳は北九州・茨城などきわめて限られた場所に集中的に存在。

畿内では河内の高井田古墳群の中にも存在。ちょうど大和政権が誕生した5世紀頃から現れ、大和政権が安定する7世紀には消えてしまう。

ちょうど三輪山の製鉄遺跡や生駒山南麓の大泉製鉄遺跡・高井田古墳群に出かけた直後のこと。

その出現地が北九州の川沿い・茨城県そして畿内高井田遺跡を考えるとまったくのあてずっぽうではあるが、『この装飾古墳は大陸・朝鮮半島からやってきた『古代製鉄「産鉄の民」』と関係が深いのではないかと』の強い思いを持っている。「是非 確かめねば・・・」である。

同じ 九州に行くのであれば、5000年前の青森の山内丸山遺跡よりも古い9500年前縄文草創期に縄文の集落があり、高い文化を持っていた鹿児島県国分の「上野原縄文遺跡」にも行きたい。

帰りに 宮崎県西都原 日本のルーツを語る天孫族記紀神話の古墳時代の西都原古墳にも・・・と。



熊本県菊池 チブサン古墳



鹿児島県国分上野原縄文遺跡



宮崎県西都 西都原古墳群

この3箇所一気に1泊2日でツアーしようということで、仲間が必死にツアー計画を作ってくれて 総勢 23名のツアー。

すごい強行軍でしたが、素晴らしい旅でした。

九州の古代遺跡 聞いたり読んだりはしていましたが、実際に意識して見学に出かけるのは初めて。「見ると聞くとは大違い」の知識の希薄さを痛感しながら新しい発見に感激の素晴らしい旅でした。



熊本県菊池 チブサン古墳
チブサン古墳内部壁画



鹿児島県国分上野原縄文遺跡
出土した素晴らしい縄文土器



宮崎県西都 西都原古墳群
隼人の根拠地と周辺から出土した蛇行剣

九州の縄文・古代遺跡を訪ねて 2004.10.6.& 7.

1. 熊本県 菊池 装飾古墳群 チブサン遺跡
2. 鹿児島県 上野原縄文遺跡
3. 宮崎県 西都古墳群

九州の縄文・古代遺跡を訪ねて

1. 熊本県 菊池川流域の装飾古墳群 2004.10.6.

チブサン遺跡・鍋田横穴古墳群・熊本県装飾古墳館



古墳時代の装飾古墳文化が花咲いた菊池川流域 山鹿市近辺 2004.10.6.

10月6日 早朝 伊丹から 阿蘇の山並みを眺めながら熊本空港へ
熊本空港からチャーターしたバスで阿蘇の山並を背後に行手に県北の山々が連なる菊地市を通過して 山鹿市へ約1時間のバスツアー。

この古墳時代の装飾古墳群が集積する菊池川流域 山鹿・鹿央の地域は 福岡・大分と熊本県の県境の山岳地に沿って、菊池川が流れ下り、流域には縄文・弥生時代からの遺跡が点々と連なり、その最下流部では日本最古の鉄斧が出土した地。

古墳時代になると前方後円墳を中心とした古墳群が発展し、6～7世紀には菊池川流域に日本有数の装飾古墳文化が栄えた地である。

その中心地が頭の上に燈籠をいただき、静かに踊る優美な山鹿燈籠踊りで有名な山鹿市である。

町の中を西から東へ菊池川が流れくぐる温泉町である。

この町の西端で北の山岳部から流れ下る岩野川・吉田川が合流する合流点の北西岸の高台 鍋田台に山鹿市立博物館やチブサン古墳・鍋田横穴古墳群などがある。

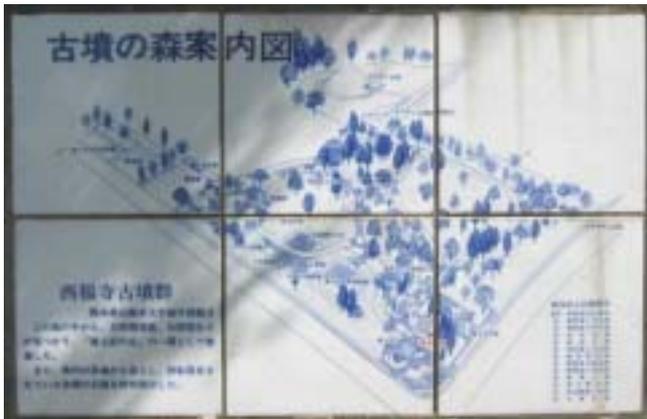
また、この菊池川を挟んで南岸 鹿央町の丘陵地には岩原横穴古墳群や熊本県立装飾古墳館がある。

これら 古墳時代装飾古墳群文化の中心地は 今「肥後 古代の森」として整備されている。

このあたりから菊池川が蛇行しながら南に流れをかえ、有名な象嵌文字の剣が出土した江田船山古墳などのある菊水町を経て 玉名市で有明海にそそぐ。

今日は この菊池川流域の装飾古墳群ならびに山鹿市立博物館・熊本県立装飾古墳館を訪れ、その後、九州自動車道を鹿児島まで行く強行軍。

1.1. 鍋田台 オブサン古墳・チブサン古墳へ



山鹿市立博物館と古墳の森案内板



肥後の森 古墳の森 鍋田台頂上部 西福寺古墳群 2004.10.6.

山鹿燈籠が街灯として立ち並ぶ山鹿市内を抜け、菊池川の支流岩野川を渡ったところに鍋田横穴古墳群の標識がみえ、ここから川岸に沿う丘陵地の細い道を何度かバスはターンしながら丘の上に出る。

樹木に囲まれた公園になっていて、丘陵地の幾つもの丘に小さい幾つものこぶがが並んでいる。

西福寺古墳群で良く整備された公園になっている。

丘の中腹の山鹿市立博物館で予備知識をいれて、ボランティア ガイドの案内でチブサン古墳を見学に丘を登ってゆく。 丘の頂上部には方形周溝墓の西福寺古墳群が広がり幾つもの古墳が見える。天気が良いので、樹木の中にいると本当に気持ちが良い。

この頂上のすぐ下の丘にオブサン古墳。そして、そこを少し南に行くとチブサン古墳へと続く。

オブサン古墳

丘を一段下ると饅頭状の古墳の入口部に長く手を伸ばした突堤の見える古墳がある。

これが、全国でも極めて珍しい突堤付き円墳で古くから「安産の神様」として信仰されてきた「オブサン古墳」である。



オブサン古墳 2004.10.9.

直径2.2m高さ 5m の古墳時代後期（6世紀後半）の円墳で、内部に巨石積の横穴式の複式石室が築かれていて、奥室には石屋形や一部には装飾文様が描かれているという。

入口から内部にはいるとすごい湿気。ガラス窓で外部と遮断 ガラス越しにみるが、内部の装飾壁画は良くわからない。

チブサン古墳

このオブサン古墳から林を抜けて少し歩くと双子の丘に見える古墳が見えてくる。

これが「チブサン古墳」である。



チブサン遺跡 2004.10.6.

チブサン遺跡は全長4.5m（後円部径2.4m、前方部幅1.5.7m）の前方後円墳。

古墳時代6世紀半ば頃に造られた代表的な装飾古墳。

潜道をとあって、後円部に全長6mの複式石室(前室1.9m 奥室3.6m 四方の正方形)を持ち、側壁はドーム状

に割石でくみ上げられ、天井は一枚の天井石でふさがれている。奥室の奥壁に沿って石屋形が築かれ、この部分に華麗な三角や菱形、同心円などの幾何学文様などが描かれ、見方によって鳥にも原始の仮面にも連想できる。

また、乳房にも見えることから「チブサン」という名がつき、「乳の神様」としての信仰を集めました。この名前の由来は、異説があつて横穴式石室のルーツが朝鮮半島南部にあることから、韓国語のチプ(家)とサン(墓の尊称)の組み合わせが変化して、チブサンになったと推理する人もいる。

また、死者の枕元の右側の壁には、白い人物像が描かれている。

悪霊の前に立ちふさがる番兵といわれ、死者を護っている。

頭上の白い八個の円文は冥界を照らす星。また、これらの赤青白黒黄を使った絵は呪術的意図をもつ「除魔辟邪」と呼ばれているという。



チブサン遺跡内部 石屋形壁面の彩色壁画 中央に同心円など幾何学模様 右壁に白い人物
(チブサン遺跡 内部石屋形レプリカより)

そんな予備知識を頭に入れて、狭い潜道の入口から中へ。

石室の中へは 2重の扉となっていて、しかも非常に狭い。斜めになっている長い階段のところで順番を待つ



チブサン遺跡 と その内部 石屋形壁面の彩色壁画 中央に同心円など幾何学模様

むんむんした内部 しゃがんでも頭を打ちそうな狭い石室の入口からガラス越しに内部を見る。

正面にくっきりと同心円模様が赤・黒・白の彩色で鮮やかに描かれ、右壁の人物もかすかにわかる。

こんな図案が6世紀に。。。。そして、赤。おそらくベンガラで描かれたのだろう。

高松塚古墳は漆喰の壁に描かれているが、チブサン遺跡などの装飾古墳では直接壁面に描かれているので剥がれ落ちずに残っている。

また、二つの丸い同心円 「チブサン古墳」名前の由来と言われるが、ぼっと暗闇の中に浮かび上がっているのを見ると

「くちばしのある妖怪」かなにかの目の玉のようにも思える。

どんな人たちがここに葬られたのだろうか。。。。。

薄明かりに照らされた壁画を見ながら、色々思いをめぐらす。

6世紀半ばといえば、大和では三輪政権が確立し、仏教伝来(538年)そして、聖徳太子の時代前夜である。



ガラス越しに見たチブサン遺跡 石屋形内部の壁画

当初 この石屋形は石棺のごとく こちら側にも石の壁があって、密封されていたとっていました。こちらから見えるように取り外していると思いましたが、そうではなく、初めからこちら側はオープン。石棺ではなく石屋形の意味やつと理解。

石室の中のベッド これが石屋形でこの中に直接死者が寝かされて葬られる。独特の墓の形式である。



チブサン古墳脇にある家屋形ならびに石人像のレプリカ 2004.10.6.

熊本県は古墳の内部に彩色や彫刻で文様や図柄が描かれた装飾古墳の数で全国一。その数はけた違いで2位の福岡県が約60基なのに対し、熊本県には187基もある。そして、これらの装飾古墳はなぜか菊池川の流域に集中し、122基が確認されている。

さらに、122群・3000基を越える横穴墓群がひしめきあって、菊池川流域に日本の装飾古墳の約4割が分布している。

「装飾古墳がなぜ 菊地川流域や福岡遠賀川流域そして茨城県などに偏在して存在するのか。。」
 この謎は今も解けていない。



熊本の装飾古墳説明のモニュメント 肥後古代の森入口で

鍋田台の東側がこの「肥後古代森林の森」の入口になっていて、台地の斜面に大きな装飾古墳説明の陶板がモニュメントとしてはめ込まれていた。山鹿市立博物館のところまで戻って昼弁当。

もう一度博物館に入ると共に、ボランティアガイドの人がふっと漏らした「菊地川は砂鉄の産地」の言葉について教えてもらう。

「菊地川では 今でも川砂鉄が取れる。 県立装飾古墳館では砂鉄を集めて、製鉄実験もしている」と教えてもらう。

「やっぱり、この流域は古代製鉄の先進地ではないか。。。」

装飾古墳はこの産鉄の民 産鉄の渡来人がもたらした文化でないか。。。 」

の意を強くするが、古代鉄との関係は良くわからず、装飾古墳館で聞くことにする。

山鹿市立博物館にはこの地でしか見つからない石包丁型鉄器が展示され、まだ他の地域が石包丁を使っていた時代に既に鉄が使われていたことを示していた。

この菊地川流域は鉄の先進地である。

また、この鍋田台地のもう少し南側にある特異な岩山が林立する不動岩近傍で砂鉄が取れることまた、同じ山中で古代の赤顔料 ベンガラが採取されたことなどを教えてもらう。



珍しい石包丁型鉄器

そんな事を教えてもらって、鍋田の丘を東側に廻ると、菊地川の流に沿った家並みの向こうに、不動岩の特異な姿が見えた。後で調べるとこの不動岩変斑レイ岩で菊地川流域は太古の阿蘇山噴火によるマグマが変質した地質で鉄鉱物を多く含んでいることもわかった。

山鹿市立博物館に展示より 石包丁型鉄器



チブサン古墳 鍋田台から見た不動岩 2004.10.6.

1.2. 鍋田横穴古墳群へ



昼食後 鍋田台を菊地川の支流岩野川の岸までおりる。

この川に沿って鍋田台の崖が続き、その崖の岩をくりぬいて幾くつもの横穴古墳があり、その数 55 基。そのうち 10 基に装飾壁画がある。鍋田横穴古墳群である。

最も多彩な壁画を持つのが、ちょうど鍋田台から下りてきたすぐ横 27 号墓の横穴で、弓をもった人物や楯（たて）などが彫刻されている。





この鍋田横穴古墳群で一番有名なのが、第 27 号墓。入口右側にも同じ線刻画があった。今は崩落してないが、江戸時代の残されたスケッチでそれがわかる。

ちょっと見た目には汚れていて判読しにくいですが、横穴のすぐ脇に弓を持つ人物　そして左へ順に矛先・鞆・鞆・鎌・矢をつがえた弓・盾そしてそれらの下に馬が描かれ、侵入者から葬られた人を守る人を描いている。鍋田横穴古墳群では　大きな装飾古墳はこれだけであるが、岩野川に沿う崖に多数の横穴があり、川に沿った遊歩道から見学できる。　墓を見学しているわけであるが、全く暗さはない。

すぐ南には清流が流れ、その向こうに東の不動岩などの山々を後背として広々とした平野が西の有明海までひろがる奥まった地。ボランティアガイドの人はこの地は昔菊地川を中心とした 3 河川の合流点で、氾濫の多い肥沃な土地だったという。

鍋田台ほか菊地川に沿う高台・山裾が昔から早く開けた所以であろう。



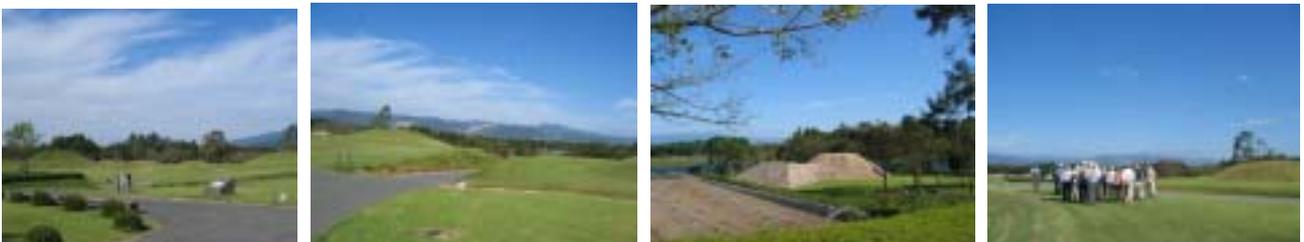
鍋田横穴古墳群 2004.10.6.

1.3. 熊本県立装飾古墳館と岩原横穴古墳群



鹿央町 熊本県立装飾古墳館とそこからみた岩原古墳群

鍋田台の「肥後古代の森」から 東西に流れる菊地川を反対南側の鹿央町の高台にも 5 世紀の古墳群・横穴古墳群がある。岩原古墳群・岩原横穴古墳群で、ここも「肥後古代の森・鹿央地区」として整備されている。その中心施設として熊本県立装飾古墳館があり、熊本県の装飾古墳のレプリカ再現展示をはじめ、屋外には岩原古墳群とともに横山古墳など県内の古墳を移設復元して展示している。



鹿央町 岩原古墳群と移設復元された横山古墳 2004.10.6.

鍋田台で時間をとったため、この台地をゆっくり歩けなかったが、全長 107m の前方後円墳双子塚古墳を中心に 12 基の円墳があり、高台の北斜面の崖には 100 基を超える岩原横穴古墳群があつた。



岩原横穴古墳群 2004.10.6.

菊地川流域を全部あるいたわけではないが、この山鹿・鹿央を中心とした菊地川流域は古墳時代の古墳の宝庫。日本誕生の先進地。そして、山鹿市の片保田東原弥生遺跡からは他の地域にはない石包丁型の鉄器が出

土。西へ菊池川を下ると象嵌文字のある鉄剣が出土した菊水町江田船山古墳。

また、川砂鉄の宝庫 菊池川が海岸で形成するデルタに程近い荒尾市の小岱山には平安時代から鎌倉時代にかけてのたたら製鉄群があるという。

「この菊池川流域は産鉄の人たちが分け入った古代鉄の先進地」の思いが益々強くなる。

そして、装飾古墳を作った人たちはそんな鉄の技術を持って この地にやってきた「渡来の人たち」ではないだろうか。。 鉄が演じた日本誕生へのドラマがここでもあったのだろう。

これが事実なら、もう一つの九州装飾古墳の集積地 遠賀川流域も鉄の痕跡があるだろう。

昔訪ねた筑豊のたたら遺跡が頭にある。

最も美しい装飾古墳といわれる北九州 飯塚の「王塚装飾古墳」にもすぐ出かけた。

確証はないが、描いていたイメージが、益々強くなってご機嫌で、この地を後にする。

後日 10月15日 北九州 飯塚の近く桂川町の王塚装飾古墳を訪ねました。その素晴らしさもすごい。

これらについては 別途 「装飾古墳群と古代鉄の先進地」とでもしてまとめます。

九州 縄文・古代遺跡を訪ねて

2. 上野原縄文遺跡を訪ねて



鹿児島県 国分 上野原縄文遺跡 2004.10.7.

正面右雲の中は霧島連峰

10.7. 朝 6時10分 桜島からの日の出。

今の鹿児島を象徴しているかのようである。

昨日 夕方鹿児島市にバスで入って、鹿児島市内で泊まるのは何十年ぶりかである。

東北の街々を見てきた私には人の多さと交通渋滞にビックリ。

京セラなど新産業が根付いた街の活気かも知れない。

南の端の町とは思えぬ活気にビックリした。

今日は 国分まで車で行って 今から 9500年前の縄文早期 日本で一番古い集落が発見され、三内丸山遺跡とともに従来の縄文時代観を覆した上野原遺跡を見学。再度国分から車で宮崎へ



鹿児島湾桜島からの日の出

2004.10.7.朝

記紀に記された古代神話の古墳群西都原古墳群を見て宮崎から大阪へのハードスケジュール。

昔の西鹿児島駅 町並みとともに新しくなった鹿児島中央駅から桜島を眺めながら、1時間弱で国分。

国分駅から南東に鹿児島湾を望む標高 250m 上野原の台地が広がる。

タクシーで約 15分ほど京セラの工場の横を通り抜け、正面に見える丘陵地に行くと林の中に白銀の円筒形の建物「上野原 縄文の森」展示館。

数年前 霧島 高千穂の峯から眺めた上野原遺跡にとうとうやって来た。

山内丸山縄文発信の会の「縄文ファイル」で時々記事を見ていて、是非行きたかったところである。



JR 国分駅



上野原台地



上野原縄文の森展示



上野原遺跡が保存公開されている上野原 縄文の森 2004.10.7

広大な上野原台地上の上野原縄文遺跡は今 広さ約 36ha の広い「上野原 縄文の森」として整備されている。中心施設として 上野原縄文遺跡の概要 出土品などを展示解説する「上野原縄文の森展示館」。発見当時の遺跡がそのまま観察できる「遺跡保存館」や「地層監察館」そして当時の復元住宅エリアなどが広葉樹林の森の中にある。

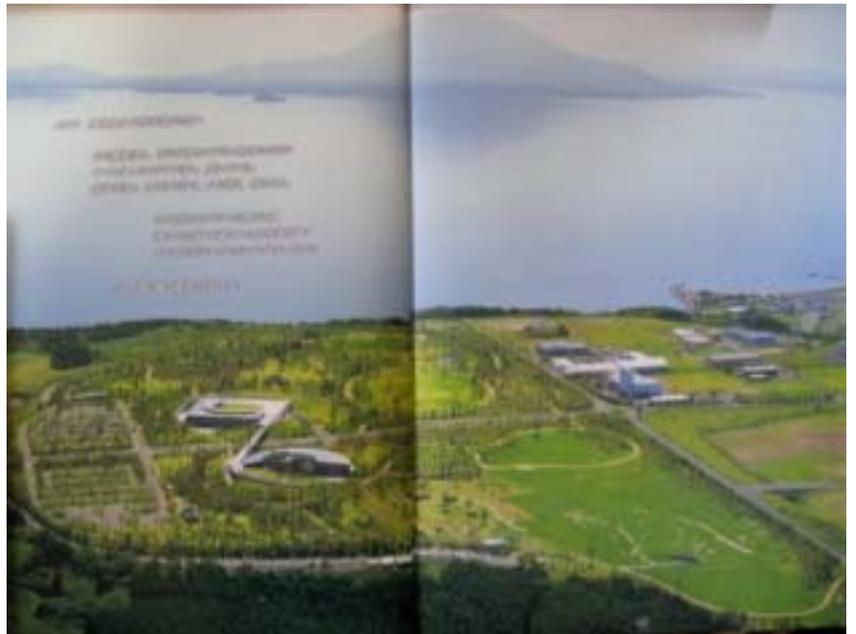
素晴らしい森の中に遺跡は保存公開されている。

約 5000 年前の縄文の大集落 青森山内丸山縄文遺跡が発見され 縄文時代に既に狩猟だけでなく定住生活と高度な文化を持っていることが判ってビックリ。

どちらかという縄文文化は東日本が中心とのイメージしていた中で、1997 年 山内丸山遺跡よりもさらに古い 9500 年も前 縄文早期に南の端の鹿児島でそれを覆す縄文の大集落が発見された。

日本人のルーツ 南海の海を越えて一部の縄文人が 黒潮に乗ってやってきて、いち早く定住の暮らしをはじめた。大発見である。

そして、この上野原の集落はその後、約 6300 年前の鬼界カルデラの大爆発とともに九州一円の他の集落とともに一度 埋もれて消えてしまう。





「日本人はるかな旅」巨大噴火に消えた黒潮の民

6300 年前大爆発した 鬼界カルデラの一部

『NHK 日本人はるかな旅 巨大噴火に消えた黒潮の民』によると地球寒冷化によって日本列島が北で地続きになったときにもずっと海が広がり、地続きにならなかった。

この日本列島の南に広がる広大な海を越えて海から日本列島にやってきた人たちがいる。

この上野原に住んだ日本人の祖先は黒潮に乗って南海の海を渡ってきた人たち。

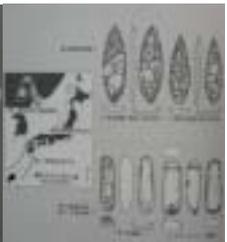
約 12000 年前から南九州に南の海の技術・文化を持ち込んだという。

南九州で広がった東日本とは少し異なる縄文文化

南の海からやってきたことを証する

1. 貝文土器とその中に混じる平底方形の土器

2. 磨製石斧



3. 舟製作に使ったと思われる磨製石ノミ型石斧



上野原縄文遺跡は 1997 年に工業団地造成中に発見された縄文時代から中世までの複合遺跡。

特に最古の定住集落跡が出土した 9800 年前の層と上野原縄文集落が最盛期であることを示す数々の遺物が出た 7500 年前の層が重要。そして、その上は 6300 年大爆発した鬼界カルデラの火山灰で覆われる。

縄文の森展示館の脇から広がる広大な緑の台地 今では埋め戻された上野原遺跡が保存されているその一角に竪穴式住居群が復元されている。

私が見慣れた縄文の竪穴式住居とは少し異なる丸型に、南からやってきた人たちの住居の構造も違うのかと

ビックリするが、学芸員の方の説明では、
 「残された住居跡の痕跡のイメージ」で、特に根拠はなく建物の形は良くわからないと。。。でも 黒潮の民には こんな住居が似合うのかも知れない



9500 年前の地層

7500 年前の地層



発掘時の 9500 年前の集落跡 集落の中に 2 条の道

7500 年前の層から出土した数々の遺物

日本最古の定住集落跡が出土した 9500 年前の層では、集落を貫く二条の道跡と 52 軒の竪穴住居跡群や調理施設とされる集積遺構と連穴土坑などが出土し、九州南部地域の定住化初期の様相をよく示しているとされる。

また、7500 年前の地層からは埋納された一対の土器や土偶、耳飾 異形石器など多彩な遺物が出土し、この地が神聖な場所だったと思われる、そこを取り囲むように日常使われる多数の土器片や石器が出土した。

縄文の森展示館はよく統一されたコンセプトで この南の海からやって来た縄文人を素晴らしい展示で概説していました。見たかった東日本の縄文土器とは異なる形式の貝殻文様の土器の数々。そして 丸太をくり貫いて黒潮にのってやってきたという磨製の石蚤型石斧。



どちらも非常にすっきりしていて 現代に通ずるビックリするほどの美しさでした。

しかし、館内は完全に写真撮影 シャットアウト。その厳格さにビックリ。開放的な縄文人 同じ縄文の青森三内丸山遺跡のオープンな展示知っているだけにビックリ。

(えらい人がきた時かどうか しりませんが、一年に数日 写真をとっていい日があるとか。。。。)

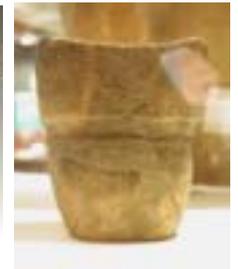
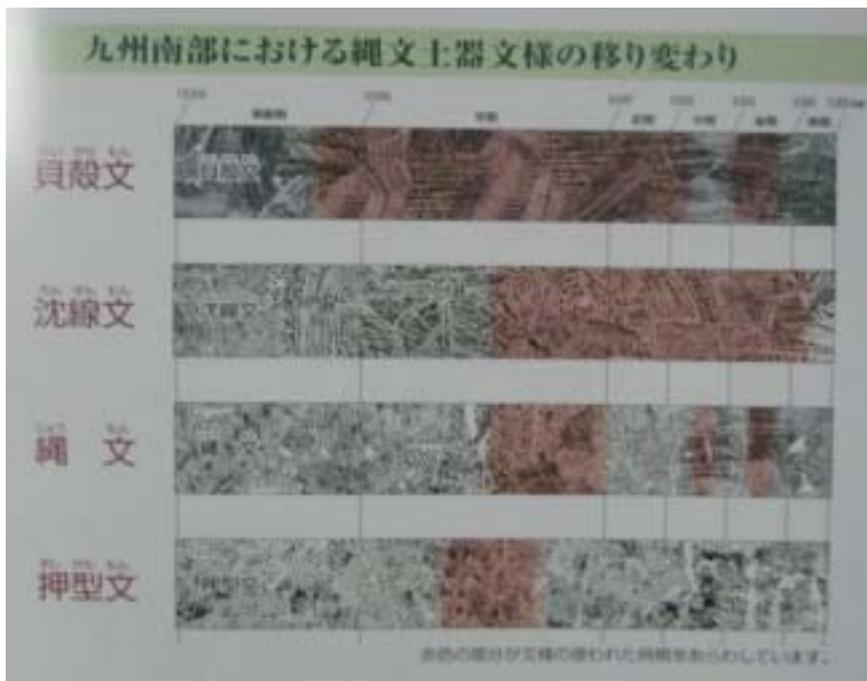
本当に 例外のある日本的 もっとオープンにすればと思うのですが。。。。

東日本の縄文人の作った縄文土器 火焰式土器・亀ヶ岡土器はじめ、その形 デザイン 文様も素晴らしいのですが、この上野原の縄文人の作った土器にも見とれてしまいました。

図説からコピーして紹介します。



上野原遺跡 縄文早期の貝殻文様土器 上野原縄文の森 常設展示図録より



貝文土器の文様の数々

上野原縄文の森常設展示図録ほかより



南九州出土の土器片 貝殻文様

なんといっても 平底の方形の土器にビックリ 四角い底面からすつと立ち上がって薄い肉厚のシンプルな形状で表面には貝殻文様
東日本の縄文土器には見られない現代にも通用する洗練さ 9500 年前にこんなすつきりしたデザインで。。。。

平底でしかも方形。。。 どうして作ったのか。。。

「日本人はるかな旅」の本には「このデザインこそが、南の海からやってきた証拠」と。。。。。

もうちょっとゆつくり見たい」と思いながらもツアーの悲しさ。あっという間に時間が過ぎて、上野原縄文の森を後にしました。

「日本人 はるかな旅」 9500 年前の日本人のルーツに触れ、そこには東日本の縄文人と同様 素晴らしい縄文文化を咲かせていました。

貝文土器の洗練された美しさ そして磨製石器のつややかな色 やつぱり行ってみないと出会えぬ美しさに満足でした。

2004.10.7.上野原の台地を下りながら

M. Nakanish

参考 本文きっちり、公証できていませんが、
書くにあたり下記資料参考しました

1. 上野原縄文の森 常設展示図録
2. NHK 出版「日本人はるかな旅」
巨大噴火に消えた黒潮の民
3. 山内丸山縄文の会 「縄文ファイル」



上野原遺跡 復元竪穴住居群

九州 縄文・古代遺跡を訪ねる旅

3. 古事記・日本書紀神話 の 宮崎県西都原 古墳群 2004.10.7.



10.7. 鹿児島県の上野原縄文遺跡見学の余韻もそこそこに、JR 国分から特急で南宮崎へ
宮崎市から北約 30 km 九州脊梁山脈の山裾の丘陵地に広がる西都市の西都原古墳群へ
宮崎県 日向国は天孫降臨神話や海幸彦・山幸彦神話などの神話の国。

「ひむか神話街道」が設定され、これら神話伝承地を観光ルートとして結ぶ。県北の高千穂町から 西都・宮崎市を通過して 南の霧島 高千穂峰の麓の高原町を結び、沿線には、天孫降臨神話や海幸彦・山幸彦神話などの古事記、日本書紀にまつわる神話をはじめ、平家落人や百済王などの伝説や神楽などの伝統芸能が数

多く残されている。

このほぼ中間にある西都市には「西都原」とよばれる高台に古墳時代の膨大な古墳群があり、

「高千穂の峯に天降ったニギニギノミコトが この西都原にやってきて、コノヤサクヤヒメと
会い、三人の子供をもうける。 その子供の一人山幸彦と海神の娘トヨタマヒメの孫が神武
天皇で、この地より東征して大和に入る 」

日本誕生の記紀神話である。

西都原に広がる膨大な古墳群の中心に位置する 5 世紀前半の九州最大規模の前方後円墳 男狭穂塚（おさほ塚） 女狭穂塚（めさほ塚）（長 174m）はこの記紀神話の主ニギニギノミコトとその妃のコノハナサクヤ姫の陵墓と伝えられている。

天皇家・日本誕生の大和神話発祥の地である。

南宮崎から路線バスに乗り継ぐ予定が、列車の遅れで乗り継げず、タクシーに分乗して西都原へ向かう。

宮崎市の市街地を通り抜け、正面に続く山々目指して 約 30 分ほどで、西都市に入り、街を通り抜けたところの丘陵地を登ってゆく。

丘の上にあがるとそこは緑の広大な台地で、丘陵地の向こうに形の良い高い峰々がそびえて、広々とした緑地のあちこちにお碗状の古墳が点在しているの見える。

後背の山々はあとで調べてわかったのですが、花の名山として知られる「尾鈴山」。

この山をバックに西都原古墳群が広がる広大な西都原風土記の丘である。

その中心に在って 大きな林を形成しているのが九州最大の前方後円墳男狭穂塚・女狭穂塚である。

この前で みんなと待ち合わせ、前もって西都原で頼んでいたタクシーに乗り換え、古墳群ならびにこの西都原の端にある西都原考古博物館を見学。

緑に包まれ、延々と台地がつづく素晴らしい場所である

3. 古事記・日本書紀神話 の 宮崎県西都原 古墳群

1. 西都原古墳群 概要
2. ニギニギノミコトとコノハナサクヤヒメの記紀神話
3. 九州最大の前方後円墳 男狭穂塚・女狭穂塚
4. 鬼の窟と鬼伝説
5. 酒元ノ上横穴墓群

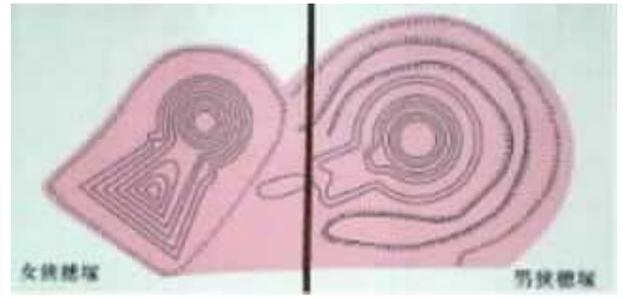
1. 西都原古墳群 概要



西都原古墳群は、西都市街の西、通称「西都原」と呼ばれている標高 60m の台地を中心に東西 2.6Km、南北 4.2Km の広い範囲に分布。

現在までの発掘調査より 4 世紀から 7 世紀前半に築造されたと推定される前方後円墳 31 基、円墳 279 基、方墳 1 基、地下式横穴墓、横穴墓など、311 基のさまざまな古墳で構成された全国有数の大古墳群。その古墳の大部分はいまだに発掘をされておらず謎を残している。 わが国第一号の風土記の丘、

（西都原風土記の丘史跡公園）として整備され、古墳と自然が調和した歴史的景観が維持保存されている。



南九州連合勢力の首長の墓 男狭穂塚・女狭穂塚（長174m）

西都原の古墳群では古墳時代始まりの3世紀後半から4世紀後半まで7つの首長勢力が墓域を異にして首長の前方後円墳を築く。

4世紀末これらの系統が統一され、南九州の連合勢力の首長の墓 男狭穂塚が築かれさらに九州最大規模の女狭穂塚（長174m）が築かれる。この墓は当時の倭王権の墓に匹敵する巨大な墓であり、この地南九州には倭王権と密接な関係を持った大きな王国があったと考えられている。

その後 6世紀前半の50m級の中型前方後円墳が作られるまで前方後円墳は作られない。

そして、6世紀後半には最後の首長（豪族）の墓である直径36mの円分鬼の窟（おにのいわや）古墳が築造され7世紀前半の酒元ノ上横穴墓群で墓の築造は終了する。

一方 5世紀後半からは数多くの地下式横穴墓や小型の円墳が集積して作られ、西都原は群集墓の様相を強める。この中には南九州独自の墓である地下式横穴墓の土盛りと見られるものもある。



鬼の窟古墳



170号古墳



唯一の方墳 171号古墳



100号古墳周辺

この5世紀は倭王権が次々と勢力を伸ばし、各地の王国を統合してゆく過程にあり、この南九州の王国もこの過程に飲み込まれ、上記した西都原の古墳群の変遷もその現れであり、記紀神話の物語もこれを色濃く反映する。

この南九州・日向の地は隼人族の地。早くから、倭王権に対抗する巨大な勢力があつた。その勢力が 連合して倭王権と連携しつつも、次第に倭王権の中に組み入れられてゆくことになる。この隼人族など南九州の王国を示す遺物や具体的な話はあまりにも少なく良くわかっていない。南九州に残る地下式横穴墓やわずかに残る墓に埋葬された蛇行剣の存在・隼人盾にそれを見ることができる。西都市考古博物館にこれらの展示がある。



西都原考古博物館とそこで見た隼人盾と蛇行剣 2004.10.7.

この「蛇行剣」を見るのは初めてで、出土例の半数以上が5世紀南九州の横穴墓嘉良の出土であり、祭礼用と見られているが、何ゆえの蛇行剣であろうか。。 また、南九州で集中出土から察して、なんらかの形で鉄の技術と絡む集団の遺物であろうか。。。 謎である。

2. ニギニギノミコトとコノハナサクヤヒメの記紀神話



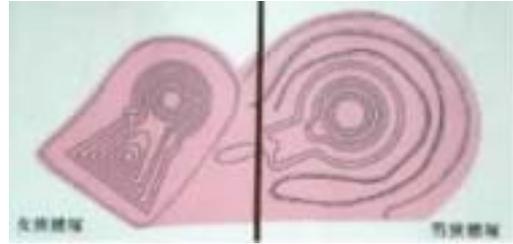
高千穂に天降ったニギニギノミコトは、安住の地を求めて、西都に辿り着いた。ある日、ニギニギノミコトは小川に水を汲みに来た美しい乙女と出会い、ひと目で心をつかまされてしまう。ニギニギノミコトとコノハナサクヤヒメ、逢初川（あいそめがわ）が結んだ恋だった。ニギニギノミコトはコノハナサクヤヒメの父、オオヤマツミノカミに妻にしたいと申し込む。やがてふたりはめでたく結婚。

しかし、幸せは一夜の契り。夜が明けるとニギニギノミコトは反乱部族の討伐に旅立っていった。数カ月が過ぎ、無事帰還したニギニギノミコトは、妻のもとに。喜びに顔を輝かせ、懐妊（かいにん）を告げるコノハナサクヤヒメ。しかし、一夜限りの逢瀬（おうせ）と長い不在の後の思いがけない知らせに、疑惑と嫉妬で胸を苛まれるニギニギノミコトは、どうしても妻の貞節を疑わずにはいられなかった。悲しみと怒りを抱えて産屋（うぶや）に入ったコノハナサクヤヒメは、出入り口を塞いで火を放つ。

「もしも生まれてくる子が天つ神ニギニギノミコトの子でなければ、私も子どもも焼け死ぬでしょう」自分と子どもの命をかけた潔白の証だった。燃え盛る炎の中で、ホアカリノミコト（海幸彦）、ホスセリノミコト、ヒコホホデミノミコト（山幸彦）と呼

ばれる三人の皇子が無事に誕生した。

山幸彦と綿津美（わたつみ）の神（海神）の娘、トヨタマヒメの孫がカムヤマトイワレヒコノミコト（神武天皇）と伝えられている。 また 海幸彦は隼人族の祖と伝えられている。



九州最大の前方後円墳 男狭穂塚・女狭穂塚



男狭穂塚・女狭穂塚の両塚は、皇室の祖先神にあたるということで陵墓参考地として宮内庁の直轄地となり、樹木に覆われた周囲は柵で囲まれ、普段は中へ入る事は出来ない。

築造は女狭穂が古く5世紀初頭、男狭穂が5世紀前半でも中葉という。したがって 神話とは時代が合わない。4世紀末これらの系統が統一され、南九州の連合勢力の首長の墓として築かれたと考えられている。この墓は当時の倭王権の墓に匹敵する巨大な墓であり、この地南九州には倭王権と密接な関係を持った大きな王国があったと考えられている。

4. 鬼の窟と鬼伝説



鬼の窟（おにのいわや）古墳とその北西都原を見下ろす尾鈴山

6世紀後半の直径36mの円墳で、この南九州日向の地を統括する最後の首長（豪族）の墓といわれ、このはなさくや姫を嫁にと願う悪鬼が、父の山の神、オオヤマツミから一夜で岩屋をつくる様に言われ、一夜で完成させたところという伝説がある。

昔西都原の台地の下に多くの人たちが住み、その一体に住む鬼が村人を困らせていました。

コノハナサクヤヒメを嫁にと願う鬼は山の神、オオヤマツミの指示どおり一夜にして岩屋を造り遂げる。

安心した鬼はうつらうつら・・・

夜が明けて鬼がおきて見るとちゃんと完成したはずの岩屋の石が一枚抜けている。

これは 鬼が寝ている間にオオヤマツミが石を一枚抜き取った跡

オオヤマツミが 岩屋から抜き取って投げたこの石は 西都市の石貫神社参道入口に据えられている。

鬼の窟古墳の入口から玄室に至る道の天井に大きな隙間があり、

また、鬼の窟の石を貫いて投げたということで石貫の地名が生まれたという。



鬼の窟古墳周辺からみた尾鈴山周辺
九州脊梁山脈 2004.11.5.

西都原の北には尾鈴の連峰が連なり、台地の北の縁を尾鈴から発した一ツ川が流れ降る。

この尾鈴山は花と滝の名峯ですが、この尾鈴山から日向の海岸にはに沿って尾鈴山酸性岩類と呼ばれる花崗斑岩質・流紋岩質・石英斑岩質の火成岩岩帯。「おすず」の言葉にも古代鉄の響きあり。

そして 鬼伝説 蛇行剣の存在。

非常にこじつけ的ではあるが、この記紀伝説の地にも鉄をめぐるドラマがあったのでは。。。と

5. 酒元ノ上横穴墓群



鬼の窟古墳の南側遠くに上屋がかかった古墳の様でもある丘が見える。これが、7世紀前半に作られた酒元ノ上横穴墓群。

覆い被された建屋の中には発掘された状態で横穴墓がいくつか見学できるようになっていた。



酒元ノ上横穴墓群 2004.10.7.

この酒元ノ上横穴墓群に葬られた人々もまた隼人族の末裔だろうか。。。。。

まだ 「蛇行剣」と「隼人」にこだわりながら タクシーの中から 回れなかった古墳群を眺めながら上野原台地を後にしました。

素晴らしい快晴の空 尾鈴山や九州脊梁山脈の連山を背景に広大な緑の台地に広がる上野原
もっと神話のゴテゴテしたところと考えていましたが、素晴らしい緑の中の日本誕生に何らかの役割を演じた古墳群。
ここでも まったく知らなかった「蛇行剣」を見て、鬼の伝説にも出会えました。

まだ 「蛇行剣」にこだわりながら、夕暮れの台地を下りて西都市のバスターミナルへ



二日間の九州の縄文・古代遺跡を訪ねる旅。駆け足の強行軍でしたが、晴天の中 まさに 緑の大地を探索。Country Walk を堪能しました。

熊本では、素晴らしい装飾古墳を見学して そして、思いもよらなかった鉄の話との出会い。

「装飾古墳の人たちが、日本の古代の鉄の技術伝来 そして日本誕生に深くかかわったのではないか。。。」という私のイメージを益々深くした菊池 装飾古墳群でした。

すぐにでも もう一つの装飾古墳群の集積地 北九州遠賀川流域 日本で一番素晴らしい装飾古墳「王塚装飾古墳」を訪ねたい気持ちに駆られています。

また、鹿児島 上野原縄文遺跡。南北の桜島と霧島連峰の間に広がる素晴らしい緑の台地の遺跡。祖先が海を越えて黒潮に乗ってやってきた日本の大地。

東日本の縄文土器とは異なる素晴らしい土器に出会えて本当に感激でした。

そして、宮崎 西都原 記紀伝説に彩られた緑の大地。ここでも予想もしなかった古代鉄との出会いでした。

快晴にめぐまれた2日 九州の自然の緑の中で垣間見た遺跡群と全く知らなかった新しい発見。

風来坊にのみ許された Country Walk の楽しみでしょうか。。。。

あまり 出かける機会がなかった九州 そして 九州脊梁の山々にも 是非歩いてみたい。

南北に伸びる九州脊梁山脈を取り囲んで営まれた古代の九州 日本誕生と古代鉄がここでどんな役割を演じたのか。。。。

一人 イメージを膨らませながら 楽しんでいます。



2004.10.7. 宮崎の夕暮れ 大淀川を渡るバスの中で

Mutsu Nakanishi

九州の縄文・古代遺跡を訪ねて 2004.10.6.& 7

【完】

1. 熊本県 菊池 装飾古墳群 チブサン遺跡
2. 鹿児島県 上野原縄文遺跡
3. 宮崎県 西都古墳群



熊本県菊池 チブサン古墳



鹿児島県国分上野原縄文遺跡



宮崎県西都 西都原古墳群

2004.11.5. by M. Nakanishi

阪神間の象徴 甲山が街から見えない 甲山の話に三度ビックリ



西宮市街地から甲山を望む甲山から 上の原 水源地・関学から阪神間の市街地を望む 2004.12.8.

もう何十年ぶりか 西宮から甲山山麓を WALK 甲山に登ってきました。

「甲山」六甲山系の東の端にこんもりとお碗型をした小さな山がある。

阪神間で育った人たちでは誰でも知っている山で 何度か遠足にピクニックに また幼い時の冒険の地でもあった。尼崎で育った私には 六甲連山を背後に朝な夕なに眺め、一番親しい山である。

でも 歩いてみて、その変貌にビックリ。 私らの知っている「甲山」からはまったく違っていましたが、昔を楽しみながらの気楽な WALK でした。

その1 甲山はトロイデ(鐘状)火山でなく 噴火でできたコニーデ火山の核心部

「甲山は噴火せず、ねばいマグマが盛り上がってできた山」それは間違いと



六甲山系の東端 甲山

『 標高 309m トロイデ型・鐘状(しょうじょう)火山でネバネバした溶岩が地下からゆっくりと上昇してきて、まわりに流れずに盛り上がって釣り鐘状に固まった火山。 』

そう習って 今の今までそう思っていました、最近の研究でどうも違うらしい。

甲山は1300万年以上前に噴火した火山の火道をつくる安山岩が、まわりの花崗岩より風化に強いので、長年の浸食で取り残されてできた山だという。

私らの年代の人はみな 「火山が噴火せず、こんもりと盛り上がってできたトロイデ型火山」とみんな思っています。 やっぱり、長いこと行かないと山まで変わってしまう。「ほんま 知らなんだ」とビックリです。

その2 阪神間で街から甲山を眺めながらの WALK を楽しめる道はもう消えた

久しぶりに 何度か西宮界限に行って、街からほとんど甲山がマンションなどによって隠れて、見えなくなっているのに突然気がついた。ビックリ。もう街からはほとんど見えない。

おそらく もっと 東で海岸に近い尼崎からはもうほとんど見えないだろう。

子供の頃は 家の横から 甲山が見え、甲山向いて歩けば、武庫川の土手で 土手から川を渡れば、西宮。そして、甲山・仁川である。ずっと 尼崎を離れ、神戸に移ってから毎日通勤した阪神間である。まったく、意識になかったのですが、気がついてみると、阪神間では WAL を楽しみながら甲山が見える場所はない。

ちょっと 悔しくなって 意図的に電車に乗って 甲山をみるが・・・

阪急・国鉄・阪神は震災後すべて高架になつたが、やっぱり、マンションの連続で断片的にしか、顔を現さない。

しっかりと見えるのは 阪急宝塚線 そして 千里丘陵を走る北大阪モノレール。

いずれも大阪からである。



阪神間 西宮界隈から見る甲山 2004.12.8.

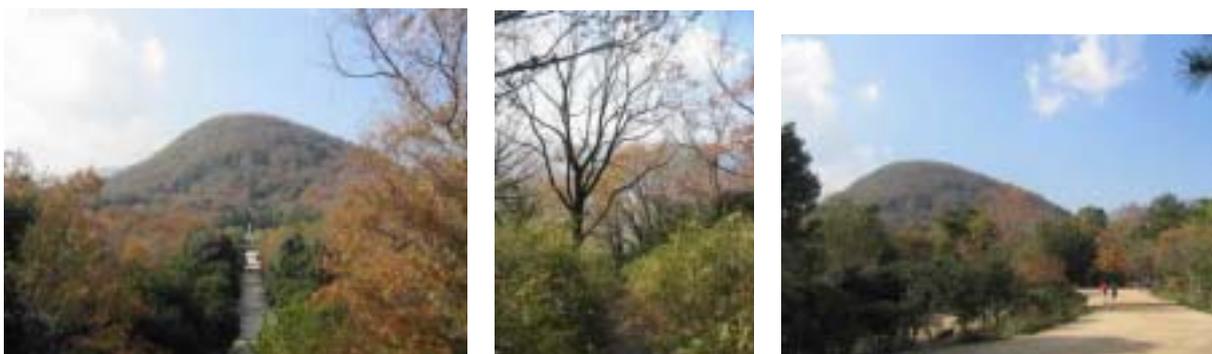
長いこと甲山界隈に行ったことがない。

もう 40 年は優にいったことがないのに気がついて、西宮での用事の終わった午後 西宮のえべつさんのある札場筋から、ぶらぶら。

広田神社を通過して 関学のある上ヶ原にあがって、甲山の森林公園から甲山へ。一時間ほどの WALK である。昔 子供の頃 遠足やなんやかやで よく知っている道・・・と言いながら、ぎっしりと家が建って、もうまったく記憶にない。広田神社は見つけましたが、確かあったはずの満池谷の水源地はよう見つけず。

いつから 甲山に行っていないのだろうか。。。などと考えながら 上ヶ原にあがって、関学・水源地の標識を見てほっとするが、あの畑がずっと続いていた甲東園の台地 上ヶ原の面影はもうなし。

森林植物園の中もよく整備され、すばらしい公園になっていた。今年は暖かく まだ、紅葉が残っている。甲山の麓のお大師さん「神呪寺」から仁川・五ヶ池への道に出たところに開館したばかりという「甲山自然センター」(旧甲山青年の家)に立ち寄って、おばさんと昔話をして甲山へ



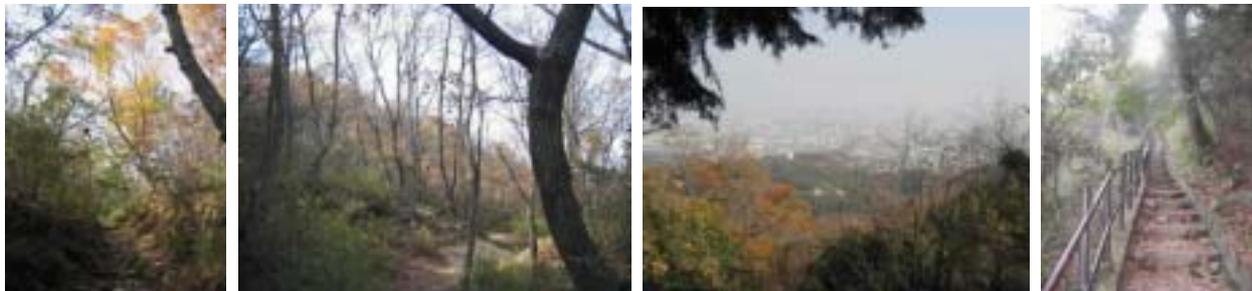
甲山森林植物園から見る甲山 2004.12.8.

その3 あの禿山 直登の甲山が林の山に変貌 数十年の変貌はすごい

街ばかりでなく、山の自然も大きく変化する

もう、何十年も昔 よく行きなれた頃は 甲山 というところ岩山ではないが、ブッシュで覆われた禿山。大きな木々はなく、大師道を上ってきて、神呪寺のところから直登で頂上へ登る道。もう 大きな木がないので、暑くて暑くて 立ち止まっては 下界阪神間の景色を眺めながらの登りだったと記憶している。それが、今は木々の間を登る道。上り始めたのは裏側の仁川からですが、表の神呪寺側の道も木々に覆われた林の中を登る道である。本当に以外であった。

戦後 六甲山系の再度山が禿山だったのが、見事植林でよみがえり、緑再生のように言われるが、この甲山もまったく同じである。せっせと植林が続けられたのであろう。当時の禿山からは想像すらできぬ。遅々と進まぬイメージに負けず、こつこつとつづければ、自然は改造できる証拠であろう。現代人は直ぐ ブルドーザで道つけて、若木を買ってきて植え付けて公園化して自然 自然というが…… やっぱり、年輪の積み重ねの重さを感じる。焼畑がやっぱり、数十年の輪で自然をコントロールするという。スピードが支配する時代の中で、物事もせつなでなく、積み重ねの中に重みが出てくることもう気がついて もよいのではないか。。。。。



甲山頂上への山道で 2004.12.8.

30分ほど紅葉の木々の間を抜けて、平らな頂上へ 木々に囲まれた平らな広場のてっぺんに二等三角点があった。360度 下界の展望を期待していたが、広場の周辺の木々に阻まれて展望は利かないが、六甲を背景にのんびり、周りの紅葉を見ながら寝転んでいるにはもってこいの場所

頂上からちよつと下り道に入れば、昔と同様 阪神間の街が広がる大展望は健在。立ち止まっては街を眺めながらの下りで、神呪寺へお入り。ここでも 境内の展望台から 阪神間の大パノラマが楽しめる。



紅葉の甲山頂上 2004.12.8.

【阪神間の大展望】

甲山頂上付近より 阪神間市街地 尼崎・西宮を望む 2004.12.8.
大阪湾

大阪

伊丹 尼崎市街
上ヶ原貯水池・関学

西宮市街
JR 西宮駅





甲山から 上ヶ原台地から西宮市街 一番奥東西に武庫川が流れる 2004.12.8.



甲山から神呪寺へのくだりで 2004.12.8.

ぶらぶらと約3時間ほど西宮市街から 上ヶ原から甲山に登って神呪寺におりて、大師道を下ってまた西宮の街へ
気持ちのよい午後のWALKでした。
でも 毎日通っていて よく知っているつもりが、こんなに変貌している
なんて、驚きでした。

時間の重みを感じながら昔をたどる walk。
おそらく、誰もが持っている故郷の道なのでしょう。
久しぶりに 西宮の市街地に足を踏み入れたとたん 自然と甲山に足を向けていました。
車では絶対に感じられないWALK。おすすめの Country Walk でした。
甲山の散策も気楽でいいですよ ぜひ 一度 街中を歩いてみては・・・



神呪寺 甲山のお大師さん

2004.12.8. 阪神電車から甲山を探しながら

Mutsu Nakanishi



甲山 頂上周辺から 阪神間の眺望

1. 仲間と「大学卒業 40 年」文集作り

私の仲間はみんな 60 の定年を過ぎ、それぞれが、今までとは違った次の生き方をはじめた年。いろいろな思いが、飲み会で語られた年でした。

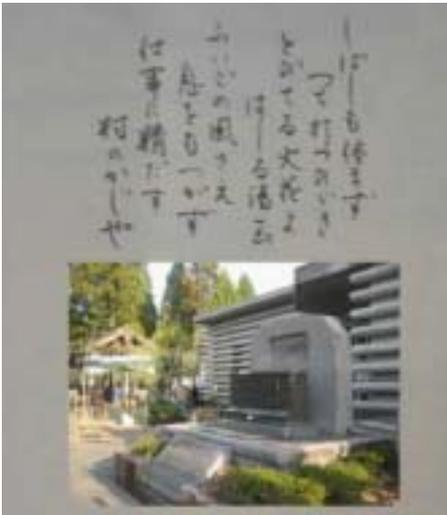
「卒業 40 年の軌跡」をまとめよう」とせっせと文集づくりに参画して……

知っているようで、知らなかつた意外な仲間の軌跡。送られてくる原稿にのめりこんでしまって……。おかげで、多くの仲間とメールを通じて接触して、また、新しい元気をもらいました。

13日より、神戸では「ルミナリエ」が始まり、来年は「阪神淡路大震災 10 周年」。

「いつまでも過去をふりかえっていても。。。」の声もありますが、本当に仲間を「まじかに」感じたのは久しぶり。ふと「立ち止まって考えることの大事さ」を感じた文集作りでした。

2. 「和鉄の道」 鍛冶屋の祭り 鞆祭



「しばしも 休まず、槌打つ響き とびちる火花よ 走る湯玉
ふいごの風さえ、息おもつかず 仕事に精出す 村の鍛冶屋」

ついで 口ずさむこともなく、忘れていた小学唱歌「村の鍛冶屋」である。

金物の街 兵庫県三木市の金物神社境内にある金物博物館前に「ふいご」をかたちどったこの「村の鍛冶屋」の歌碑がある。

旧暦 1 月 8 日は鍛冶屋の祭り「鞆祭り」。今では新暦の 1 月 8 日に日本各地で鞆祭りが行われることが多いという。江戸では鍛冶にかかわる人たちが、仕事を休んで、風を送る道具「鞆」を祭って、仕事の繁栄と防火を祈り、街の子供たちにみかんをばら撒き一緒に鞆祭りを祝ったという。

この鞆祭のみかん 紀伊国屋文左衛門は強い季節風をものともせず、江戸へむけ船を出し、財をなしたという。東京 鍛冶屋の街「神田」でも神田明神で鞆祭りが行われるという。

小学唱歌「村の鍛冶屋」歌碑
三木市金物神社境内 金物資料

ぜひ一度 この鞆祭りを見たいと思いながら、機会がなかったのですが、やっとこの鞆祭りを 2ヶ所で見学してきました。

- 「村の鍛冶や」の歌碑がある金物の街 兵庫県三木市「金物神社」の「ふいご祭り」
- 鉄・金属屋の守り神 金山彦命を祭神とする岐阜県垂井 「南宮大社」の「金山祭・ふいご祭り」と「古式鍛錬」 「南宮大社」は伊吹山と鈴鹿の山脈に囲まれた関が原の美濃側の出口にある。

今 私の興味は たたら製鉄が始まる 5,6 世紀以前 日本誕生に大きくかかわった 「先たたら」の製鉄技術の存在。多くの古代伝承の中にそれを見る。

「鞆祭り」の中にも そんな和鉄の歴史の痕跡を残していると考えられる。

11月8日は「鍛冶屋」の祭り 日本各地で「鞆祭り」があった



岐阜県垂井 南宮大社 金山祭 鞆祭り 古式鍛錬 2004.11.8.

岐阜県垂井町 南宮大社 金山祭の地 伊吹山の山麓 美濃も そんな古代の中心ではないか・・・

北東には美濃国府があり、直ぐ横には大前方後円墳群 そして赤鉄鉱を産する金生山があり、これらの関連が南宮大社へつながっている。

また、越・北近江から伊吹・美濃・尾張と続く地は大和と方を並べる産鉄の渡来人・豪族たちの根拠地。そこで継体天皇が擁立されたと考えられる。

南宮神社の南東養老の地は壬申の乱の天武天皇と関係深い産鉄の地でもある。

大海人皇子（天武天皇）は大和吉野から軍をひきいて隠（名張）から伊勢・美濃を経て、近江の京に迫り、近江軍を破って天皇の位につく。

そんな思いで 南宮大社の古式鍛錬式・鞆祭りを見ていました。

鞆祭りを見学したあと 美濃 古代の道 東山道(中仙道) を Country Walk。金生山にも登って、美濃の国の鉄を訪ねました。

九州の装飾古墳群 そして、この美濃の国 日本誕生とかかわる産鉄の地 そして それらを支配する豪族がそれぞれ日本誕生に連合・参画していったのではないか・・・

まだ、整理はしていませんが、美濃の国 Country Walk も楽しい旅でした。

まず、第一報 鍛冶屋の祭り 「鞆祭り」見学記をまとめて 「和鉄の道」に掲載しました。

3. 子供のころから慣れ親しんだ 六甲の東端 コニーデ型の火山「甲山」 2004.12.8.

「甲山」六甲山系の東の端にこんもりとお碗型をした小さな山がある。阪神間で育った人たちでは誰でも知っている山で 何度か遠足にピクニックに また幼い時の冒険の地でもあった。

尼崎で育った私には 六甲連山を背後に朝な夕なに眺め、一番親しい山である。



西宮市街地から甲山を望む 甲山から阪神間の市街地 2004.12.9

でも 歩いてみて、その変貌にビックリ。

私らの知っている「甲山」からはまったく違っていましたが、昔を楽しみながらの気楽な WALK でした。ぶらぶらと約 3 時間ほど西宮市街から 上ヶ原から甲山に登って神呪寺におりて、大師道を下ってまた西宮の街へ 気持ちのよい午後の WALK でした。

でも 毎日通っていて よく知っているつもりが、こんなに変貌しているなんて、驚きでした。

時間の重みを感じながら昔をたどる walk。

おそらく、こんな道は誰もが持っている故郷の道なのでしょう。

久しぶりに 西宮の市街地に足を踏み入れたとたん 自然と甲山に足を向けていました。

車では絶対に感じられない WALK。おすすめの Country Walk でした。

甲山の散策も気楽でいいですよ ぜひ 一度 街中を歩いてみては・・・

4. 陶房葉月便り (萩焼の陶房 葉月 田中講平先生のホームページ)

2004.11.19. 一緒にインターネットを楽しんでいる山口市吉敷の萩焼 陶房葉月の田中講平先生を家内と二人で訪ねました。

「陶房葉月」秋の陶芸教室生徒作品展がちょうど スタート。

インターネットで「インターネット 陶芸教室作品展」やろうという企画のホームページ製作を一緒に楽しみました。

みんな すばらしい作品ばかりで、中央の公募展に応募する人もいるか・・・ 深まり行く秋を陶房葉月で一日過ごして帰りました。



また、萩開府 400 年記念「萩の陶芸家たち」展を県立萩美術館をみてきました。

萩の大家から気鋭の作家まで、本当に惚れ惚れする作品がならび、その中に田中講平先生の作品も堂々と位置を占めていました。

萩の各種技法の最高峰決してとどまっていない技術のすばらしさ そして 奥行きの高さに歴史を感じ感動。萩のよさ やつぱり、現地で 実際に見て・・・すごい感動でした。

この展覧会の目録として出版された「萩の陶芸家たち」の本を買ったのですが、108 人の陶芸作家の代表作とともに、萩焼きのすごい苦難の歴史がまとめられていました。

ぼくらは伊万里の李三平の歴史は見聞きするのですが、同じような歴史 萩でも 薩摩でも あったこと知りました。和鉄の歴史 朝鮮半島交流史 そして その後のたたら歴史と重なって、非常に興味津々。一度きっちり 調べたいと思っています。

5. 「地球おはなし村」便り <http://www.k2.dion.ne.jp/%7Ehazuki/tgkyo00.htm>

やっと「地球おはなし村」のホームページが立ち上がって、11月20日 大阪十三の教会でのチャリティー公演「地球おはなし村」とバザーが開催。僕は当日山口からとんぼ返りで参加するだけでしたが・・・。

多くの人に支えられ、西アフリカ ペッテ村の井戸掘り募金もだいぶ集まったようです。

最後はいつものとおり、ジャンベの太鼓のリズムで輪になってみんなで 手拍子・膝を打って 踊って・・・これがあるから やめられない。



2004.11.20. チャリティ公演「地球おはなし村」で

一度「地球おはなし村」の活動に参加しませんか・・・

また、ご協力いただいている西アフリカ ペツテ村井戸掘り募金も引き続きよろしく
内容は 「地球おはなし村」のホームページをぜひ ご覧ください。

- 地球おはなし村ホームページ
- 西アフリカ 北部カメルーン・ペツテ村 井戸掘り募金にご協力を
水の少ない北部カメルーンの地で しかも人口爆発により
益々環境が悪化し、子供たちが苦しんでいます
きれいな水を !!
井戸掘り募金にご協力をお願いします

2004.12.15. by Mutsu Nakanishi

1.

北摂の山 大峰山へ 桜とツツジを訪ねて 20004.4.12.



武田尾 武庫川沿いに旧福知山線廃線跡から桜の園・大峰山へ



桜満開の4月12日

一度訪れてみたいと思っていた桜博士 笹部氏の桜の演習林 武田尾「桜の園」。

思い立って、家内と二人 武田尾・武庫川沿いの旧福知山線廃線跡を通過して、大峰山の山の斜面に広がる「桜の園」から北摂の大峰山へハイキング。

山は芽吹き・新緑の季節 山裾では山の斜面に淡い緑と桜の花が重なり、また、山道には「ミツバツツジ」が桃色の花をつけて山の匂いプンプンの気持ちの良いハイク。

桜はしだれの巨樹の素晴らしさに眼を奪われた事もありましたが、今回は芽吹きの新緑の山中で織り成す桜の素晴らしさに見とれました。



山の匂いを一番感じる good な時 里山のよさを満喫してきました。

武田尾・生瀬は昔阪神間の子供が遠足で武庫川の川原へ行ったことのある場所。

また、夏にはキャンプ・水泳にと 私も子供の時何度となく行きました。

今はもうすっかり武庫川沿いも変わって・・・

山へかかる宝塚・生瀬・名塩は山もすっかり住宅地になっています。

生瀬などウイルキンソン炭酸水工場のところから歩いて 川原に降りてその上の淵で泳いで・・・といっても全く信用してもらえません・・・

生瀬から奥は武庫川の渓谷で両側から山が迫り、そこを走る福知山線も川沿いを幾つものトンネルを抜けて三田の盆地に入る。武田尾はその真っ只中にある温泉で川沿いには鉄道だけしかなく、川沿いには行けず、山を回って北から山を降りてこの小さな集落に入る。

もうビックリしたのですが、この状態は今も同じで、武田尾には北の幹線道路からやとと車がすれ違える道を下って入る。

でも このため、都会のすぐ傍で有りながら、本当に静かな里山と川の景色がそのまま残っています。

10年ばかり前に福知山線の複線電化で、この武庫川渓谷沿いの難所を生瀬から山をくりぬいてトンネル一本で直接武田尾に抜ける。そこからまたトンネルで三田へ抜ける新福知山線が開通。

旧線路が廃線となり、その一部を通るコースが宝塚のハイキングコースとして整備されました。

大峰山山腹が笹部桜博士の桜演習林で、笹部博士没後、随分荒れていたようですが、ハイキングコースの一部として整備がすすみ、数年前に「桜の園」として開放。其の中をとおつて、大峰山・中山を通して能勢の山々に抜ける北摂の山の縦走路が整備されました。

ちょうど大阪平野の北西の山裾で六甲と北摂の山々の間から武庫川が宝塚で流れ出る。

武庫川の大阪湾への出口尼崎で生まれた僕には小さい頃から良く知っている思い出一杯の懐かしい場所です。でも ちょっと不便で 最近はお出かけすることが有りませんでした。



武田尾と大峰山周辺の地図



4月12日 平日の晴天 神戸の自宅から三田へでて、武庫川を渡って北から山を越えて武庫川渓谷の武田尾まで降りてくる。車で、約1.5時間程である。

朝早くでてきたので、歩いているのはほんの数組。街からほんの直ぐの位置なのですが、街の喧騒からは完全に遮断され、両側を山で隔られた狭い渓谷の中に自然一杯の小さな集落武田尾。福知山線が武田尾駅の手前でトンネルから顔を出し、またトンネルへ消えてゆく。

その川岸の山裾にへばりついて旧福知山線の線路跡が続いて.旧の駅前周辺が細長い駐車場になっていて、この下の武庫川との間の狭い場所に武田尾の集落がひっそり収まっている。
武田尾温泉は川の南側の川沿いの小さな枝谷に数軒の旅館が納まっている。



武田尾 旧福知山線 廃線跡 大峰山山腹「桜の園」周辺 2004.4.12.

桜満開の木々と数十軒の家並とあとは中央に流れる武庫川の流れと芽吹き of 淡い緑に包まれた山があるだけ、本当に静かな山里である。駅前の駐車場に車を置き、直ぐ横から廃線跡を歩き出す。

木々の緑を浴びながらいろんなことを思い出しながら、武庫川沿いを芽吹き of 山腹にへばりついて伸びる廃線跡をあっちをみたりこっちを見たり、振り返ったり、トンネルも潜って・・・。

廃線跡を少し南へ歩くと廃線に添う川と山をバックに山腹一面に広がる素晴らしい桜の景色が見えてくる。



武田尾 旧福知山線 廃線跡より 大峰山山腹「桜の園」を眺める 2004.4.12.

そこが「桜の園」で廃線跡を離れ、水上勉「桜守」のモデル「莊川桜」など各地の桜の指導で有名な桜博士 笹部さんの桜演習林の中、素晴らしい桜を眺めながら大峰山の山腹を登ってゆく。

本当にみごとな桜である。

廃線跡に大峰山の枝谷が流れ込むところに「桜の園」の案内マップ・標識と左手山の方に桜の園へ遊歩道があり、廃線跡はさらに川沿いを宝塚の方へ続いている。

「桜の園」の遊歩道に入るとこの狭い谷が桜の園で、狭い谷を一周できるように山腹に遊歩道があり、左の谷北側に満開の桜の林が見える。

この桜の林を抜けたところから、遊歩道と別れてさらに上へ登る大峰山への山道がついている。



武田尾 武庫川沿い 大峰山山腹「桜の園」 笹部博士の桜 2004.4.12.



桜の林を抜けるとそこから、よく整備された登山道が上へ上へと続く。

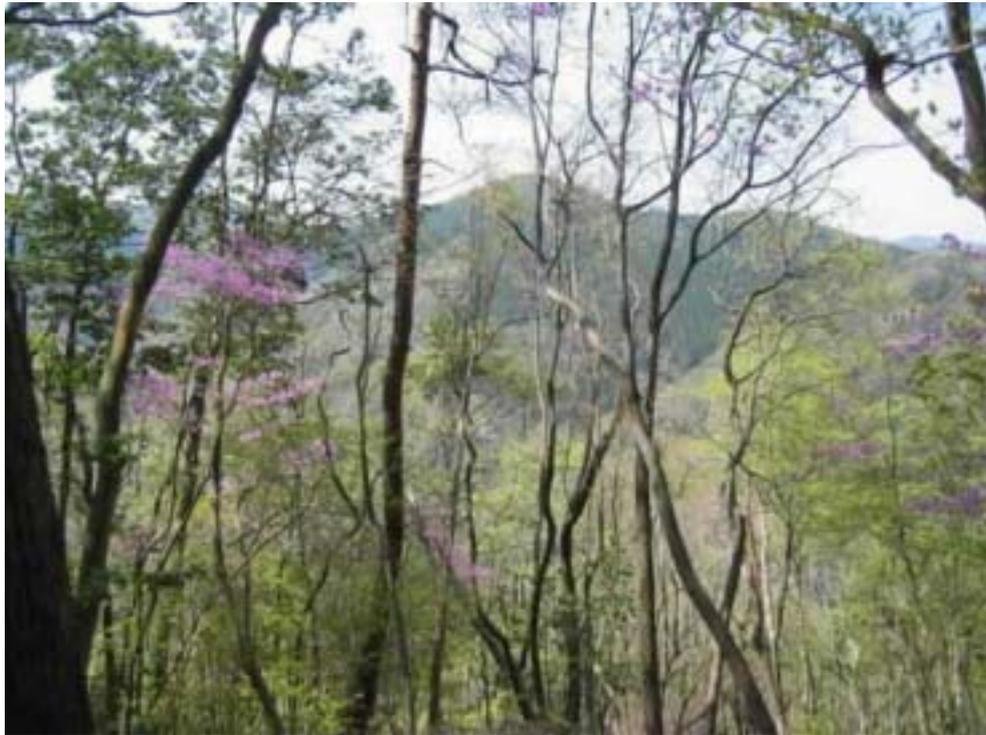
芽吹いた若葉の淡いみどりが、まるで匂うがごとく……である。

5月の季語に「風 ひかる」があるが、きっさこんなところを吹き抜ける新鮮な風をいうのだろう。ずっと林の中であるが、木々の間から武庫川や向かいの山の緑が気持ちよい。

また、道のあちこちにミツバツツジが花を咲かせている。

桜とミツバツツジと 意図したとおり、同時に見れて、ラッキーです。

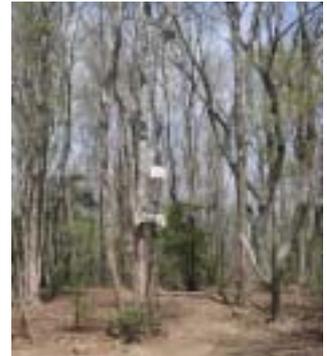
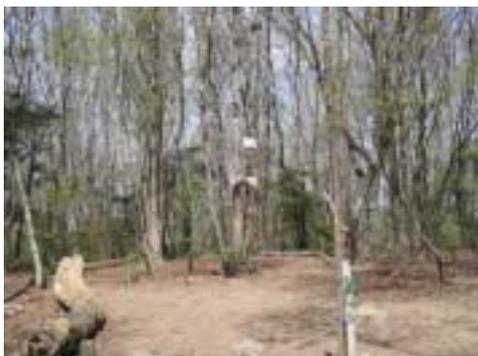
ちょっと早いのですが、枯れた花がついていないので、よけいに鮮やか。家内がいうにはツツジは花が落ちずについたままでかれるので満開を過ぎるときたなくなるので、咲き始めのほうがかきれいと。。。。



大峰山であったミツバツツジ 2004.4.12.

幾つかのこぶを越えて約1時間ほどで552m 大峰山の頂上。誰もいないひっそりとした林に囲まれた中に大峰山頂上の標識が木にしばられていた。

すべてまっすぐに立った灌木が重なってまるでモニュメントのごとくこの頂上を取り囲み、いていつも見る山の林とはちがった光景で美しい。視界は開けないが、南に木々の間から六甲の連山が見える。



すっとまっすぐに立並ぶ灌木に囲まれた大峰山頂上とその付近より南六甲連山を望む

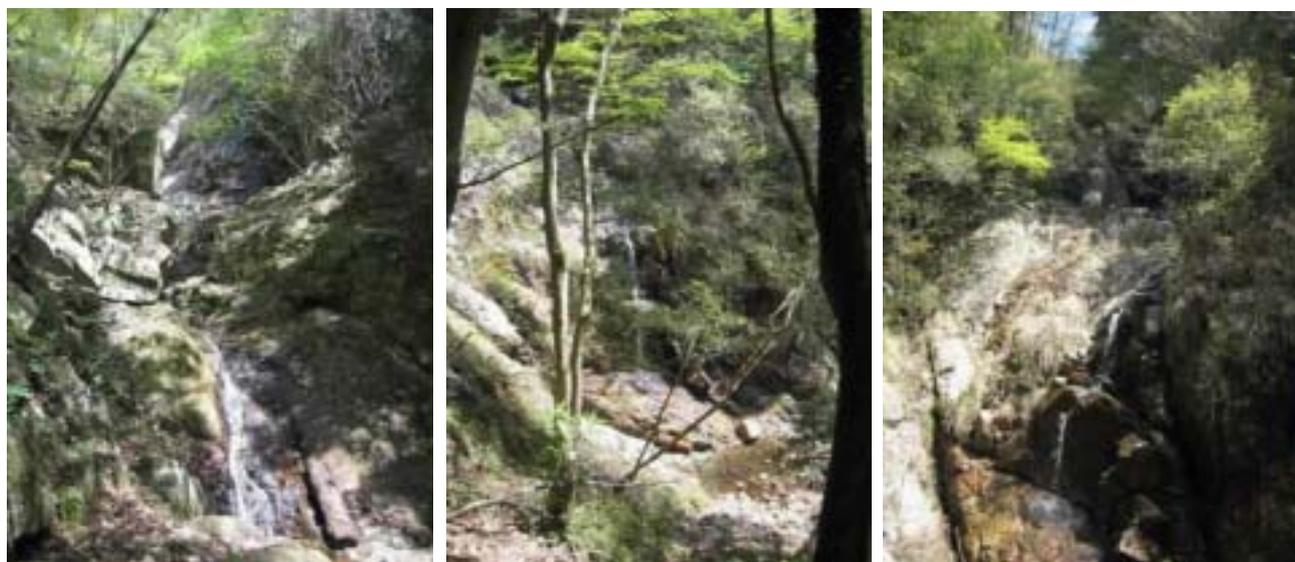
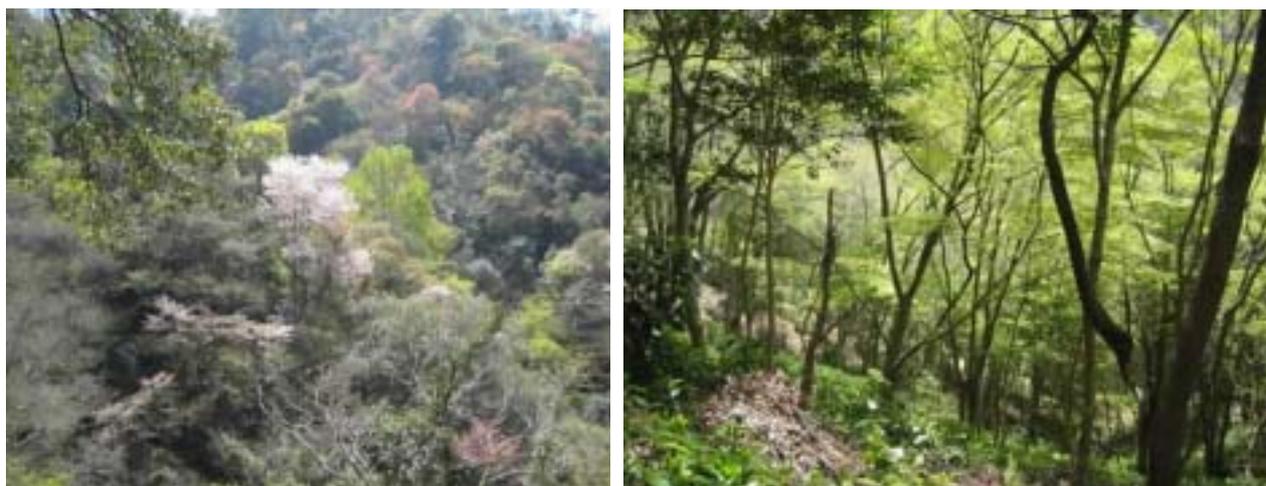
頂上からは、さらに東へ中山から能勢へと道が続いているが、やっぱり視界は開けないと聞いて、頂上からもときた道を引き返す。

桜の園の上で滝道にでて、滝を見ながら昼食して武田尾温泉に入ってゆったりする予定。

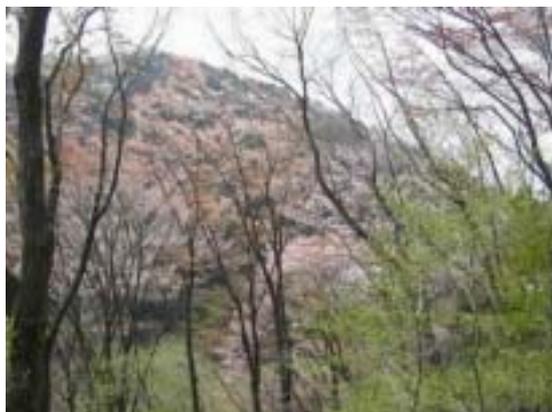
昔はこの先も惣河谷・中山と随分奥深いと思いましたが、今は住宅地がせまり、気楽に歩けそう。毎月川西へ縄文の会で通っている間に一度朝早く出て、川西池田万願寺から北摂連山を武田尾までやってみよう。



ミツバツツジ 大峰山 登山道で



大峰山 「桜の園」滝道で 2004.4.12.



帰路の午後 違った表情を見せる「桜の園」桜道 2004.4.12.

小さい時 ハイキング・キャンプ

そして煙を吐く汽車の窓から窓を開け閉めしながら見た武庫川渓谷

そのイメージに浸りながらの本当に何十年ぶりかの武田尾。

笹部桜博士が精魂込めた桜 聞いてはいましたが、やっぱり山の中に調和するのが一番。

静かな落ち着いた芽吹きของ郷 本当に素晴らしい里山のハイキングでした。

by M. Nakanishi 2004.5.1.

2.

世界遺産に登録された吉野 山ハイク 2004.10.13.

蔵王権現三尊像を拝観して 大峯奥駈道 を青根が峰まで



吉野山 大峯奥駈道 2004.10.13.

吉野といえば、山桜の名所であるが、今吉野から大峯山・熊野に至る参詣道が世界遺産に登録され、すごいブームである。9月末 大阪市立美術館で開催された「祈りの道 吉野・熊野・高野」に出展されていた吉野 金峯山寺 蔵王権現立像のあまりの迫力にビックリ。

最近ついぞ感じなかったエネルギーをもらったような気がしました。

吉野 金峯山寺の蔵王権現堂の本尊 秘仏 金剛蔵王権現三尊像が世界遺産に登録されたのを期に特別公開去れているのを知って 是非 直に吉野山中の蔵王権現堂で見たいと吉野に出かけました。

あわせて この蔵王権現堂から大峰山を経て熊野へ険しい大峯の峯々を縫って続く修験の道「大峯奥駈道」。このスタートの部分 蔵王権現堂から桜が続く中千本・上千本・奥千本を抜けて吉野山の頂上青根が峰までぶらぶら少し歩いてきました。

吉野山から大峯山山上ヶ岳にかけての一带は古くは金峯山（きんぷせん）と称し、古代より世に広く知られた聖域。この金峯山に役行者が白鳳年間（7世紀後半）に修行に入り、修験道独特の本尊・金剛蔵王大権現を感得。この姿を桜に刻んで、山上ヶ岳（現：大峯山寺本堂）と山麓の吉野山（現：金峯山寺蔵王堂）に祭祀されたのが金峯山寺の開創と伝えられている。



吉野山 金峯山寺 蔵王堂と金剛蔵王権現 三尊像

昭和 23 年（1948 年）蔵王堂（国宝）を中心に、金峯山修験本宗が立宗。その総本山として今日に至っている。秀吉が建てた現蔵王堂は金峯山寺の本堂で、重層入母屋造り、桧皮葺き、高さ 34 メートル、四方 36 メートル。堂々とした威容の中に、優雅さがあり、たいへん勝れた建築で奈良の大仏殿に次ぐ巨大な木造建築物(国宝)である。

秘仏本尊蔵王権現は三尊はそれぞれ約 7 m の巨大な立像で、中尊は釈迦如来・左尊は千手観音・右尊は弥勒菩薩の化身とされ、また 過去・現在・未来をあらわすとされている。

世界遺産に登録された吉野山ハイク

蔵王権現三尊像を拝観して 大峯奥駈道を青根が峰まで

1. 近鉄吉野駅から蔵王 権現堂へ 秘仏 蔵王権現三尊像拝観
2. 大峯奥駈道を青根ヶ峯へ【1】 中千本から上千本 水分神社へ
3. 大峯奥駈道を青根ヶ峯へ【2】 大峯奥 駈道を青根 ヶ峯へ
4. 奥千本 西行庵を経て帰路へ

1. 近鉄吉野駅から蔵王権現堂へ 秘仏 蔵王権現三尊像拝観



吉野川と上市の家並み 正面奥室生の山並み



正面右 三角の山が吉野山 青根ヶ峯

10月13日晴れ 家内に握飯を作ってもらって 9時10分大阪阿部野橋発吉野行の近鉄特急に飛び乗る。吉野・熊野は険しい山中というが、大阪から山と盆地を抜け、1時間ちょっとで吉野に着く。

檀原神宮・飛鳥を過ぎ、金剛・葛城の山々と明日香の山々の間を縫うように点々と続く山里の集落を抜けてゆく。集落のない山中に分け入りトンネルを抜けると東西に流れ下る大河吉野川にぶち当たり、川沿いにすこし遡ると上市。吉野の入口である。

川向こうに吉野・大峯の山並みが続く。

ここで、電車は南へ90度曲がって吉野川を渡り、谷間をすこし進むと終点吉野。

吉野川を渡ると深山の吉野 遠い遠い山中にやってきた感じがする。

平日で朝早かったからなのか 駅に降り立ったのは10名ほど。

静かなものである。



近鉄吉野駅と駅前からのロープウェイ

吉野駅の広場から 南見上げる山筋が吉野山。

ここから吉野山・山上ヶ岳・行者還岳そして大峯の最高峰 八経ヶ岳を経て熊野本宮へと大峯・熊野の山々続く。そして この峯々の縦走路は古代から今にいたるまで連綿と続く「大峯奥駈道」と呼ばれる修行の厳しい山岳道。一度はきっちり縦走してみたい道である。

駅前のロープウェイ乗り場に座っているばあさんが声をかける。「山上まで歩くと30分 ロープウェイで5分」と。人影のない駅に小さなロープウェイがかかり、上に山上駅が見える。車道を歩くのもいやだし、乗って行くか・・・とつい楽しめました。



金峯山寺 銅の鳥居と仁王門前 2004.11.5.

ロープウェイの山上駅前からは狭い尾根筋の一本道の両側にみやげ物店や宿屋などが建ち並ぶ門前街が続く。狭い尾根筋に門前の街がひしめいていて、下界とは違う山上の宗教都市の中にはいりこんだことを感じる。銅の大鳥居の前にでて、それをくぐると程なく巨大な仁王門とその前の石段。大きな仁王門の屋根に重なって、権現堂の大屋根が見える。

大きな金剛力士像がにらみつける仁王門をくぐって 樹木の緑が美しい坂道を登りきると大きな蔵王堂の前。平日なので人も少なく静かなもの。

秀吉が再建したという蔵王権現堂 奈良の大仏殿に次ぐ巨大木造建築物。

ようこんな山上に巨大なものを..... さすが秀吉である。



金峯山寺 本堂 蔵王権現堂



蔵王権現三尊はこの蔵王権現堂が債建されて以来ご本尊として鎮座。

通常は扉が閉められ、4年一会の密教儀式の時以外は眼に触れることがない。今回「紀伊山地の霊場とその参詣道」が世界遺産に登録されたのを期に一年間にわたり、ご開帳されている。

蔵王堂の中に入り、三尊の前に座ると三体の仏像がすごい形相で自分にせまってくる。



金峯山蔵王権現堂ご本尊 世界遺産登録 特別ご開帳された 秘仏 蔵王権現三尊像
左から 弥勒菩薩(5.9m) 釈迦如来(7.3m) 千手観世音菩薩(6.1m) の化身
(堂内は撮影禁 金峯山寺インターネットより採取)

過去・現在・未来の三世にわたる守護仏で、穏やかで静かな形相の裏にある強い意志と力で悪に立ち向かう化身のお姿で

どちらのお姿も深い慈悲の心を示しているという。

役行者がこの吉野・大峰の厳しい大自然の中での苦行の中、強い祈念の中で感得された蔵王権現様。

神であり、仏であるとして神仏混淆を旨とする修験道のご本尊で、ご本尊の前で静かに祈り拝めばすべてを認め、一切を許す「恕の心」を感じ取れ、「今 憎しみの宗教戦争とも取れる戦乱の中 世界平和を一心に祈る」と説く。

そんな説法を聞いたこともあって、目の前の蔵王権現像にマリア像を重ねていました。

修験の道がこんなおおらかな広がりを持っていたとは知りませんでした。

本当にものすごいその形相に頭の中は空っぽ 思わず眼を伏してしまう。

蔵王堂内の右端の役行者像の前では護摩が焚かれ祈祷がはじまった。

私はクリスチャンですが、思わず成田新勝寺で教えてもらった不動明王御真言 ウラオボエですが、「ノウマクサンマンダバザラダンゼンダ・・・(マカロシャダソワタヤウンタラタカンマン)」ぼそぼそ唱えて、世の平和と一緒に祈念する。

三尊像をながめたり、訪れる人に説法する坊さんの話に耳を傾けたり、ぼんやりとしばらくの間お堂の中に座っていました。

教会のお御堂もそうですが、お堂の中で 静寂の中 何も考えずにぼつと座っている時間がたまらなく心地よい。 本当にすごい迫力で身に迫ってくるエネルギーに感激でした。



2. 大峯奥駈道を青根ヶ峯へ【1】 中千本から上千本 水分神社へ

12時過ぎに蔵王権現像の強烈なイメージを頭に入れながら、吉野山の頂 青根ヶ峯に向かう。
大峯奥駈道のはじまりである。

この山上の狭い尾根筋には蔵王堂を中心とした金峯山寺とその門前町が中千本・上千本を経て吉野水分神社まで約6キロ続いている。みやげ物屋・宿坊と共に全山桜である。

そして、その先集落はなくなり、大峯神社を経て青根ヶ峯へ 約4キロの道のり。

奥駈道はさらに南へ続き山上ヶ岳 八経ヶ岳を経て熊野へ続くが、青根ヶ峯から奥千本 西行庵へ立ち寄って吉野へ引き返すコースを 色づきはじめた山を眺めながらのハイキング。



中千本から上千本へ 【1】 2004.10.13.



中千本から上千本へ 【2】 2004.10.13.

車のすれちがいやつとというドライブウェイが上へ上へと続き、色好きはじめた樹木と眼下の景色を楽しみながらのハイキング。疲れを感じないままに高度を稼いでいる。

ところどころで舗装された道と交差しながら大峯奥駈道が遊歩道としてよく整備されて続き、その道標が見える。まだ山は紅葉には早い、ところどころで色づき、紅葉時の人出と車の波を考えると一番いいとき。

中千本の集落が途絶え つづら折れの急な坂を登り始めると山の斜面の緑に色づき始めた木々が映えて一層美しい。

どんどんと蔵王堂の大屋根が小さくなる。あつちへよったり、こっちで立ち止まったり。道端に座り込んで、山を眺めながら、握り飯の昼食。ぶらぶら気楽な上千本あたりのハイキングを楽しみながらの約1時間。坂道を登りきると義経千本桜で有名な「花矢倉」。

また、上千本の小さな集落の中に入り、美しい石垣の家並みの続く坂を登りきると人通りもほとんどない静かな山里 街道の奥に赤い立派な社殿と鳥居が見えてくる。



水分神社である。

鳥居をくぐり、境内に入ると静寂の別世界。

立派な社殿は重要文化財。

古くは青根ヶ峯の頂上に有ったとも伝えられ、この神社の奥に青根ヶ峯の頂があり、水分神社の名が示すとおり、今通ってきた街道筋「大峯奥駈道」が分水嶺であることが判る。



吉野山 上千本 水分神社 2004.10.13.

3. 大峯奥駈道を青根ヶ峯へ【2】 大峯奥駈道を青根ヶ峯へ

水分神社を過ぎると人家が途絶え、桜と杉林の中をまた、上へ上へと登ってゆく。

吉野山の頂上まではあと約5キロ尾根筋ののぼりが続く。

眼下には 蔵王権現堂の大きな屋根が緑の中に浮かび、今登ってきた道筋が見渡せ、その向こうには東西に流れる吉野川を挟んで金剛

葛城連山から大和・室生の山々が浮かんでいる。



大峯奥駈道が狭い車道と交差しながら上へ上へと登って金峯山神社の鳥居前へ出る。

大峰信仰の起点で行者はこの社から荒行に入るといふ。

ここから車道を外れ、山道を青根ヶ岳へと杉木立の中を進む。



大峯奥駈道 大峯奥駈道と鳳閣寺・黒滝集落への道の分かれ 2004.11.5.

程なく、杉木立の中に 大峯山への道を 示す道標。まっすぐ進むと鳳閣寺を経て黒滝へ下ってゆく道。左へ上ってゆく山道が大峯奥駈道である。

うっそうとした杉林の中の山道をさらに進み、西行庵・奥千本への別れを過ぎるとまもなく女人結界の石碑の前に出る。

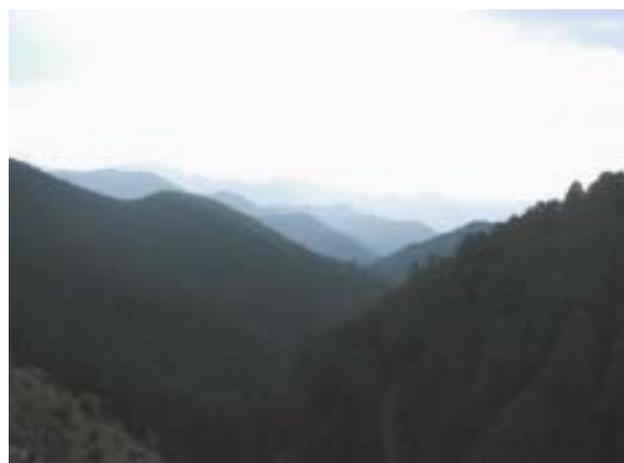


大峯奥駈道 女人結禁制界の道標 204.10.13.

右が青根ヶ岳の頂上から山上ヶ岳に出る道 左が青根ヶ岳を巻いて山上ヶ岳へ続く道。

昔はここからが大峯奥駈道 女人禁制結界の境であった

巻き道は右側南の方が開けて展望が開けるので、このまま進んで反対側から青根ヶ岳に登ることにする。深い谷を挟んで幾重にも重なる大峯の峰々が続く展望が素晴らしい。座り込んでしばし展望を楽しむ。静寂の中にどこからかほら貝が鳴り響いて、この道が大峯奥駈道であることを思い出させる。



幾重にも重なって続く大峯の山々 大峯奥駈道 青根ヶ峯近辺で 2004.10.13.

15分ほどで青根ヶ岳を巻いたところで、青根ヶ岳からの縦走路と共に反対側を巻いてきた縦走路とドライブウェイの三叉路に出る。

ここから道はさらに山上ヶ岳へと続いているが、今日はここまで。
青根ヶ岳への登りへ引き返し、吉野山の頂上 標高858mの「青根が峰」
に立つ。



吉野山の頂上 青根ヶ峯

2004.10.13.

林の中に包まれ、青根ヶ峯の標識がかかっているのみで全く視界は開けない。
ここから奥駈道を山上ヶ岳までは約9時間ほど。

この峰に降った雨は、東へは落差50mの蜻蛉(せきれい)の滝を下って
音無川へ、南は黒滝の丹生川へ、西は下市の秋野川へ、そして北へは万葉
集に詠われた「象(きさ)の小川」へと流れて 宮滝で吉野川へ合流する。
吉野山は麓の宮滝から見ると美しいピラミッド型に見えるという。



古代から神名火山として神聖化された所以であるが、電車を下りて すぐに
尾根筋に取り付いたので、そのピラミダルの山の実感はない。

この頂まで上り下りなく同じような傾斜でまっすぐ尾根筋をのぼっ てきたことが、その証明か。。。。

4. 奥千本 西行庵を経て帰路へ

頂上に一寸いて すぐに反対方向に縦走路を女人結界のところまで下つてゆく。

その先で西行庵のある奥千本までちょっと下って寄り道して金峯山神社への帰路。

奥千本 苔清水 西行庵の道標に従って左に谷筋の山の中腹を下ってゆく。清水がほとぼしり出る苔清水ま
まで下りると山腹の狭いテラス状の広場にあり、桜の樹木の間から小さな庵が見える。全く人里から隔離 され
た深山の隠里 奥千本 西行庵である。



奥千本 苔清水 西行庵

周辺〔1〕

2004.10.13.

このあたりは谷筋をくだった山の中腹で 一番秋が早いのか紅葉し始めた樹木が美しい。このあたり、山の
一番奥の谷筋で少し寒いのか 一番はの色づきが早い。下ってきた斜面の上 金峯山神社への道に上ると周
囲の山が見渡せ、素晴らしい気色である。

静かな深山に時折 ほら貝の音が遠く聞こえて 静かに時間が流れてゆく。
頂上から静かに周囲の山々を眺めるのとは一寸違ったもうひとつの山の楽しみの時でもある。



奥千本 苔清水 西行庵 周辺〔2〕 2004.10.13.

ハイキングの一团が下ってきたので、腰をあげて帰路へ尾根を越えてゆく。
道筋の露出している山肌がところどころ真っ赤で、鉄分を多く含んでいることがわかる。



奥千本の帰路の山道で 見かけた鉄分を多く含んだ山腹



吉野・熊野は水銀はじめ、古代の鉱物地帯であり、修験の道もそれらの探査の道であったとも言える。
私はよく知らないが、産鉄の人たちも数多く入ったのであろう。
古代の鉱物資源地帯 多くの人たちがこの鉱物を求めて山に入り、修験の聖地になっていったのか。。。。

金峯神社のところに戻り、上千本の集落をぬけ 下ってゆく。
ゆっくりと眼下に見える蔵王堂を眺めながら、今日のハイクを振り返る。
のぼりにはあまり注意しなかったが、尾根筋の東にはどっしりと金剛・葛城の山が夕暮れの中にかすんでいる。



神戸にいとあまり意識がないが、こちらを見ると台地からどっしりと立ち上がったその姿の大きさに驚かされる。葛城のさらに北にこぶ二つのちっちゃな山が見える。二上山と思うのだが、定かでない。こうしてみると 吉野は大和の国から本当に近い。古代の本道がこの地を通過していたことも理解できる。



吉野山の西北側に連なる金剛・葛城連山 2004.10.13.

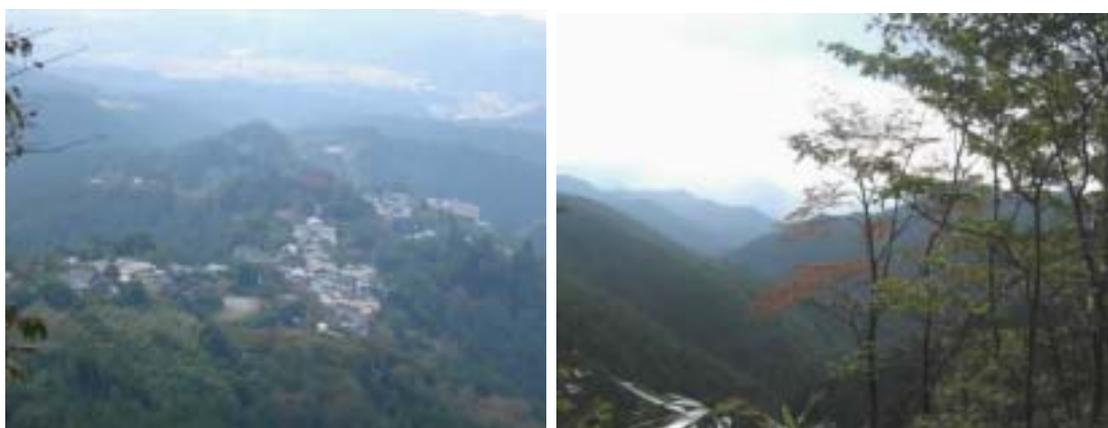
吉野はもっと深山でもっと宗教臭さがある山と思っていましたが、それが無い。明るい山。

随分 イメージが違っていました。

これも 蔵王権現のあの強烈な姿と自然のみしか、眼にとまらぬためか。。。。

再度蔵王堂に参って、眼に焼きついている蔵王権現の姿をもう一度思い浮かべながら近鉄の駅に下ってきました。

2004.10.13. 夕 Mutsu Nakanishi



世界遺産に登録された吉野山ハイク 【完】

蔵王権現三尊像を拝観して 大峯奥駈道を青根が峰まで

2004.11.5. M. Nakanishi

2004 夏のアルバム

1.

「西長門 角島の浜木綿」 2004.7.4.



7.4. 久しぶりに西長門リゾート 角島大橋と角島の海を見に出かけました。

真っ青な透き通った海流が 白砂の浜と角島の上に架けられた角島大橋の下を潜りぬけ、いつ来ても 裏切らないその景観に満足。

また、日本海の波が打ち寄せる角島の浜には浜木綿が咲き乱れ、素晴らしい風景。

群落に咲き乱れる浜木綿を実際に見るのは始めて。 思いがけずで 本当に goo でした。

前にも書いたのですが、山口の中で一番好きな場所。

青海島の長門市から西へ日本海沿いに 20 分ほど長門と下関のほぼ中間「特牛」海岸に浮かぶ小さな島が角島です。

「特牛」日本で一番難解地名「コトイ」と読みます。

角島と本州長門側との間の狭い海峡を真っ青な海流が流れる場所 周りにケバケバシ看板や店もなく、一日静かに海を眺めて飽きない場所

日本海に沈む夕日が素晴らしい場所でもあります。

海流の流れるこの静かな景色と夕日をウリにして 西長門リゾートホテルが浜にあるのですが、周りの景観と良くマッチしてここでゆっくり海を眺めながらお茶するのが好きでした。作者忘れましたが、旅行スリラー「西長門殺人事件」で描かれた舞台で、山口に赴任した時 文庫本読んで飛んでいった所です。



角島大橋ができるまでは、「特牛」港から小さな連絡船でこの海流の中を突き切って角島へ行く。穏やかな流れがその真っ只中にはいるとこんなに激しいのかと実感しながら、島へわたるのも魅力でした。

青海島の断崖絶壁の海岸風景と打って変わって 白砂の浜と青い海のまったく観光化していない静かな場所



角島大橋の袂から 角島方面 海流を眺める 2004.7.4.

4,5 年前に角島大橋が開通して、直接長門側がつながり、観光開発が行われていたので、どんなに変わったのか 心配でもありました。

角島大橋の袂に展望所と小さな売店が出来、橋と海流が見渡せるようになっていました。

また、角島の中には角島灯台まで広い観光道路がついて、いくつか観光施設が出来ているもののやっぱり 都会から遠く離れている事もあって静けさが保たれていました。

灯台下の日本海に面した北の海岸には 浜木綿の群落がかが白い花をつけて素晴らしい景色。

何度もこの海岸には来ましたが、浜木綿の群落に咲く花を見るのは初めて 清楚な花が浜と良くマッチして 意外 掘り出し物でした

【日本北限に咲く浜木綿 西長門 角島】 2004.7.4.



以前は浜に難破船が放置され、その横に不審船注意の看板があって、その周りに浜木綿の群落が発生するまま野生のままでしたが・・・

今は良く整備された公園になつて・・・こんな綺麗に花が咲く時期があったなど思いもよらぬことでした。

浜木綿というと 白浜など暖かい南紀や伊豆の海岸が思い浮かび、山口角島の浜木綿など思っても見ませんでした。ここは浜木綿群落の北限の地という。大事にしてほしいものです。

これからは 海水浴が一番賑わう時。浜も賑わうでしょうが、今の状態でいつでも好き勝手に見られることを願っています。



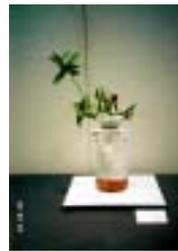
2004.7.25. by M. Nakanishi

萩焼 陶房葉月

2.

萩焼 花器と活けられた花の素晴らしいコラボレーション

「萩 田中講平」作陶展 横浜 高島屋 (2004.5.5-5.11.)写真より



7月の梅雨の晴れ間 陶房「葉月」を訪問。
横浜 高島屋で開催された「萩 田中講平」作陶展 (2004.5.5-5.11.)の写真をさせていただいた。
あんまりすばらしかったので、写直接写させていただいてお裾分け。
陶芸の魅力 再発見です。



田中先生の作品に活けられた花 花と花器のハーモニー

田中先生の作品に活けられた花 花と花器のハーモニー
陶芸などという作品のみ鑑賞するのが常
でも 本来の実用に供された時に
こんなに素晴らしいコラボレーション
花も作品もこんなに輝くなんて・・・



忘れていたものを思い出した気持。
新しい萩焼の魅力発見です。
田中講平先生の作品の素晴らしさにあらためて感動しました

2004.7.5. 陶房 葉月 を訪ねて

- なお「萩 田中講平」作陶展は9月広島そごう その後 順次大阪や神戸でも開催予定だそうです

「萩 田中講平」作陶展 横浜 高島屋 (2004.5.5-5.11.)より



「萩 田中講平」作陶展 横浜 高島屋 (2004.5.5-5.11.)より



広島 田中講平 作陶展 広島そごう 美術画廊にて 2004.10.3

10月3日 萩焼の田中講平先生の広島で開かれていた作陶展に家内と二人で出かけました。出展された作品のかもす落ち着いた味わいをゆったりと鑑賞。すっかり 気分のリフレッシュして帰りました。

この田中講平先生の幾つかの作品の肌に「ほたる」が飛んで「萩」の素晴らしい味わいをひきだしていました。萩焼の技法のひとつと聞いていましたが、「ほたる」をこんなに意識して色々鑑賞したのは初めてで、材料屋の私にとっては 興味深々で田中講平先生にも会場で色々教えてもらいました。この「ほたる」に すっかりうれしくてこの一文かきました。

2004.10.20. Mutsu Nakanishi



萩焼きの肌に舞うほたる



作品の肌に「ほたる」が舞う田中講平先生の作品
 広島 田中講平 作陶展より 2004.10.3.

「萩焼に舞う ほたる」

萩焼の素晴らしい味わいを引き出す「ほたる」という技法 正式には御本手焼というらしい。

萩焼の肌のあちこちに赤みがかった輪がまるでホタルが光っているかのようにほつほつと飛び、「ほたるが飛ぶ」と表現される。赤みが濃い場合には「もみじ」と表現する場合もあるという。

この「ほたる」は窯の中で起こる窯変の一種で中々制御できないものだと長く思っていました。田中講平先生にこの技法について色々うかがって、その奥深さを聞いてまたビックリ。



田中先生 いわく

「 窯の中できっちり制御はできないにしても、作品のイメージの中に
 取り込んで、緻密に技法としてアプローチする。偶然に起こる代物ではない。 」

「 素焼前の生の状態で別の土で化粧がけをし、窯の技術を駆使制御して
 この「ほたる」を作品の表面に飛ばすのですが、窯から出したときに
 思い通りにできた時の喜びは 「いいホタルが飛んだね」と満足感で一杯 」と……………。

萩焼では「ほたる」の技術ひとつにしても 陶芸家それぞれの「素地のデザイン・美しさ」と「化粧がけの
 妙技」・「窯の技術」のコンビネーションがその作風を生み、作品の素晴らしい味と個性を生む。

化粧がけの仕方や窯の温度・雰囲気・作品が置かれた場所など窯の状態ではうまく飛んだり飛ばなかったり……………

イメージどおりには行かず、時にはまったくほたるを飛ばせなかったり、また 予想もしなかった味わいを
 作品に引き出すこともあるという。

試行錯誤の中から、陶芸家それぞれが作風として習得される技法と聞きました。



材料技術屋の私にとっては 「ほたるが飛ぶ」そのメカニズムは興味深々

「ホタルのとんだ赤い輪 ひとつひとつに、ポツンと微小な点があり、これがホタルを飛ばす原動力」とそっと教えてもらいました。

「萩の七変化」といわれる味わいと奥深さを生むひとつの要因として、この「ほたる」の奥深い技術をちょっと覗かせてもらった気がしています。

田中講平先生の作風の代表のひとつ「列状文」もまた、施された凹凸の文様と化粧がけなどの技法が萩の素地とほどよく調和し、窯の中でさらに磨かれて、作品の素晴らしい地合い・色合いを生む。

「ほたる」や「列状文」の技法が 作品の中でよく活かされ、「田中講平先生の萩」を味わい深いものにしていて勝手に想像しています。

やっぱり 偶然では何もできないのですね。

「萩焼に ほたるが飛ぶ」美しい言葉とその響き

この言葉に田中講平先生の作品を重ねて 数々の作品の素晴らしさに見入って、満ち足りた気分で広島から帰ってきました。

やっぱり 萩はいいですね。

2004.10.3.

田中講平作陶展を見て

Mutsu Nakanishi

